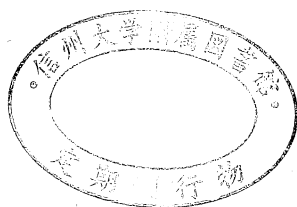


長野県松本市

ARIGASAKI

蟻ヶ崎遺跡

— 第3次発掘調査報告書 —



2007.3

松本市教育委員会

例言

- 1:本書は財団法人深志尚学会による仮称深志教育会館建設に伴い、松本市教育委員会が緊急発掘調査を実施した蟻ヶ崎遺跡の第3次発掘調査報告書である。
- 2:調査にかかる費用の一部は国庫補助金による。
- 3:調査対象地は松本市蟻ヶ崎3丁目424-1に所在する。なお、グリッドの座標系は真北より0度20分29秒西へ傾斜している。
- 4:試掘調査は平成16年9月8日より9月9日まで行ない、調査は平成17年4月18日より5月31日まで行なった。整理作業および本報告書の作成は平成18年4月3日より平成19年3月23日まで行なった。
- 5:本書の執筆編集は内堀 団が担当した。
- 6:本書の作成にあたり石製遺物属性観察および版組の一部は内田陽一郎が作業分担した。なお、属性観察における分類基準及び器種名称は以下の文献に拠る。

太田圭郁 1998「IV-2-(2)-②石器・石製品」
『境窪・川西開田遺跡I・II』
松本市教育委員会pp75～pp105

太田圭郁 2000「第3章 第3節 4.石器」
『平瀬遺跡II』松本市教育委員会 pp93～pp122

- 7:土層観察には新版標準土色帳23版を使用した。なお、土層一覧で用いた略号についての凡例を以下に記す。

gr:礫(gravel)粒径2mm以上
csa:粗砂(coarse sand)粒径2～0.2mm
fsa:細砂(fine sand)粒径0.2～0.02mm
si:シルト(silt)粒径0.002～0.002mm
cl:粘土(clay)0.002mm以下

- 8:4.2.遺構・遺物において古代の土器に用いた時期区分、分類名称は以下の文献に拠る。

小平和夫 1990「第3章 第5節 古代の土器」
『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4』
長野県埋蔵文化財センター pp97～pp158

- 9:尚志社松本学寮について森 義直氏に有益な御教唆を頂いた。記して御礼申し上げます。

- 10:本調査で回収した遺物及び調査の記録類は松本市教育委員会が保管・管理し、松本市立考古博物館に収蔵されている。

松本市立考古博物館
郵便番号390-0823 長野県松本市中山3738-1
電話番号0263-86-4710 FAX番号0263-86-9189

- 11:本報告書の入稿及び校正はPDF形式で実施した。

- 12:なお、本調査における普及活動として現場見学会を松本深志高等学校生を対象として平成17年5月23日と25日に、城北公民館主催事業の希望者を対象として5月28日にそれぞれ実施し、城北公民館公民館報に成果の一部を公表した。また、松本市教育委員会主催の「発掘された松本2005-松本市遺跡発掘報告会」において、写真パネルと遺物の展示を平成18年2月9日より2月16日まで実施し、期間中の2月11日には事例報告を行なった。

本文目次

1.調査経緯	1
1_1.文書記録	1
1_1_1.発掘調査	1
1_1_2.整理報告書作成	1
1_2.経過	1
1_3.体制	1
2.遺跡環境	1
2_1.地形概観	1
2_2.地質概観	1
2_3.調査履歴	1
3.調査方法	2
3_1.現場作業	2
3_2.整理作業	2
3_2_1.記録整理	2
3_2_2.遺物整理	2
4.調査成果	4
4_1.土層	4
4_2.遺構・遺物	4
5.総括	28
5_1.遺構について	28
5_2.遺物について	28
5_3.尚志社松本学寮とみられる痕跡について	28
5_4.遺跡構造	28

表目次

第1表 トレンチ一覧	5
第2表 断面図一覧	5
第3表 土層一覧	6
第4表 遺構一覧	19
第5表 石製遺物石材単位器種組成	20
第6表 石材略号	21
第7表 石製遺物遺構単位石材組成	21
第8表 石製遺物器種略号	22
第9表 石製遺物遺構単位器種組成	22
第10表 土製遺物遺構単位器種組成	23

挿図目次

第1図 調査区位置図	1
第2図 調査行程模式図	3
第3図 遺構分布及び須恵器分布図	14
第4図 土層断面図(1)	16
第5図 土層断面図(2)	17
第6図 仮設検出面エレベーション断面投影図	17
第7図 土層断面図(3)	18
第8図 石製遺物分布図	24
第9図 遺物垂直分布図	25
第10図 須恵器遺構間接合資料分布図	26
第11図 遺物実測図	27
第12図 尚志社松本学寮平面図	28

図版目次

図版1 1_bw495_断面02	
2_bw296_遺物回収作業状況	
3_bw581_調査区遺構完掘状況全景	
4_bw591_調査区西側遺構完掘状況	
5_bw517_str59(竪穴住居跡)完掘状況	
6_bw456_str58(竪穴住居跡)ID04159検出状況	
7_bw624_str58(竪穴住居跡)完掘状況	
8_bw419_松本深志高等学校生見学風景	

本書仕様

印刷	CTPオフセット印刷
出力線数	175線/インチ
製本	中綴じ
紙質	マットコート110kg

1. 調査経緯

1.1. 文書記録

1.1.1. 発掘調査

平成16年11月14日

平成17年度文化財関係国庫補助事業計画書提出

平成17年4月1日

平成17年度国宝重要文化財等保存整備費補助金
(国庫補助)内示

平成17年4月15日

平成17年度国宝重要文化財等保存整備費補助金
(国庫補助)交付申請書提出

平成17年6月1日

平成17年度国宝重要文化財等保存整備費補助金
(国庫補助)交付決定

1.1.2. 整理報告書作成

平成17年11月28日

平成18年度文化財関係国庫補助事業計画書提出

平成18年3月29日

平成18年度国宝重要文化財等保存整備費補助金
(国庫補助)内示

平成18年4月6日

平成18年度国宝重要文化財等保存整備費補助金
(国庫補助)交付申請書提出

平成18年6月1日

平成18年度国宝重要文化財等保存整備費補助金
(国庫補助)交付決定

1.2. 経過

蟻ヶ崎遺跡は、松本市街地北部の蟻ヶ崎地区に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地として縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡となっている。これまでに、平成9年の県営蟻ヶ崎岡地建て替え事業、平成10年の松本市デイサービスセンター建設に伴い、二度の緊急発掘調査が行なわれている。

こうした中、平成16年8月、蟻ヶ崎3丁目424-1に財団法人深志尚学会が所有する軟式テニス場に仮称深志教育会館の建設が計画された。当該地は二度の緊急発掘調査が行われている地点の南側隣接地であり、かつ古墳時代中期と推定される饅頭塚古墳の西側に近接しており、古代の遺構はもちろんのこと、古墳等が用地内に存在する可能性のあることが予想された。

そこで松本市教育委員会では事業主体である財団法人深志尚学会と遺跡の保護について協議を行ない、当該地における遺構・遺物の有無について確認するため、先ず松本市教育委員会が遺跡の試掘確認調査を行なうこととし、その結果を受けて再協議を行なうこととなった。

試掘確認調査は同年9月8日から9日までに行なわれ、事業予定地内で奈良から平安時代の遺物が出土し、遺構の存在も確実となり、遺跡の存在が明らかとなった。

同年9月22日、試掘調査の結果を踏まえ再び財団法人深志尚学会との協議を行なった結果、建設による遺跡の破壊は避けられないとの結論に至り、保護措置として工事着手前に緊急発掘調査を行ない遺跡の記録保存を図ることとなった。発掘調査および調査に係る事務処理については、財団法人深志尚学会より委託を受け、松本市教育委員会が業務を行なうこととし、平成17年4月8日付で委託契約を締結した。

松本市教育委員会では次節に示したような緊急発掘調査団を組織して、平成17年4月18日より同年5月31日まで現地での緊急発掘調査を行ない、終了後整理作業を平成18年3月31日まで行なった。引き続き整理作業および本報告書刊行のため、平成18年4月3日付で委託契約を締結し、平成19年3月23日をもってすべての業務を終了した。

1.3. 体制

調査団長:松本市教育長 竹淵公章(平成17年度)

伊藤 光(平成18年度)

調査担当者:主事 小山高志(平成17年度)

嘱託 内堀 団

発掘協力者:今村 克、海老原千津子、勝川順一、河野清司、清水陽子、兎川國明、福島 勝、三代沢二三恵、三代沢宗俊、本木修次、渡辺順子

整理協力者:洞澤文江、三澤栄子、村山牧枝、百瀬二三子

調査事務局:松本市教育委員会教育部文化財課

(平成17年度)部長 赤穂 優、課長 宮島吉秀、

課長補佐 熊谷康治、主査 直井雅尚、

主事 櫻井 了、嘱託 渡邊陽子、

嘱託 花村かほり

(平成18年度)部長 赤穂 優、課長 宮島吉秀、

係長 横山泰基、主査 直井雅尚、

主査 関沢 聡、主事 櫻井 了、

嘱託 花村かほり

2. 遺跡環境

2.1. 地形概観

本調査地点は松本市の旧市街地の西端、城山から芥子坊主山に延びる筑摩山地東麓で、女鳥羽川により形成された標高610m前後の緩く南東に傾斜した第2段丘面上にある。また、東方数十mには西大門沢川が南流する。

2.2. 地質概観

旧市街地の土層は、主に薄川と女鳥羽川の堆積物により形成されているが、下部の堆積物の中には梓川の礫が混入し、深くなるにつれて多くなる。堆積物のうち礫の岩質では、薄川系は緑色凝灰岩類・安山岩・石英閃緑岩など、女鳥羽川系は、ひん岩・砂岩・溶結凝灰岩・安山岩、梓川系では、粘板岩・硬砂岩・花崗岩・チャートなどが主である。

本調査地点の基盤土層は、これまでの調査地点と同様に女鳥羽川の堆積物である灰褐色砂礫層の上に新第三紀層の風化物、旧女鳥羽川の堆積物、その上に載っているロームなどが崖錐となって移動混入した複雑な様相である。

2.3. 調査履歴

1次調査は平成9年10月17日から同年11月29日にかけて面積1,778m²を調査し、奈良時代から平安時代の遺構、遺物が出検されている。内訳は、竪穴住居跡19箇所、穴跡81箇所、溝状遺構2箇所、不明遺構1箇所であり、遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土している。(平成9年度報告書刊行)

2次調査は平成10年7月27日から同年9月14日にかけて面積372m²を調査し、縄文時代、奈良時代から平安時代の遺構、遺物が出検されている。内訳は、竪穴住居跡11箇所、穴跡25箇所、合口甕棺墓1箇所であり、遺物は縄文土器、石器、土師器、須恵器、鉄製品が出土している。(未報告)

なお、穴跡は土坑とピットを数えた総数である。



第1図 調査区位置図

scale=1/10000

3. 調査方法

本調査では遺構を調査区土層断面または層理面上に不整合として収束する任意の土層群、遺物を土壌以外の物体とし、調査区内におけるあらゆる土層と遺物の回収を目的とした。その為、土層分布は断面図をより多く作成し、遺物分布は三次元座標の記録保存することを目的とした。

3.1. 現場作業

調査区設定: 建地部分に設定し、面積は332m²を測る。

基準点設定: 旧日本測地系第8系の国家座標値を移設し仮設原点として用い、磁北を基準として調査区全体を3mメッシュで分割した。グリッド座標系は真北より0度20分29秒西へ傾斜する。グリッド名称は南西交点で呼称した。ベンチマークは、最寄りのマンホール標高を用い設定した。

日本測地系:X=271435.732m/Y=-47947.112m

基準標高杭:Z=610.464m

検出面設定: 遺構検出層理面を確認するため、バケット容量0.25m³バックホーで調査区西南角より時計回りでほぼ全周するバケット幅のトレンチを掘削した。トレンチの掘削は、遺物が出土するか遺構が明瞭に確認できた場合は一端中止した。掘削に並行した土層観察で、掘削範囲を全周する現地表面より深さ0.1m付近と深さ0.4m付近の2枚の不整合層理面が確認された。そのうち下層の不整合層理面で、粒径の異なる堆積物が基盤層へ落ち込む不整合を確認した。大きく基盤層となる堆積物は2枚あり、一方は礫層で比較的容易に遺構を検出可能な状況であったが、もう一方はシルトで色調も遺構堆積物と非常に酷似した土層であった為、遺構検出作業が困難であることが予想された。そこで調査期間を考慮し、二次堆積ローム直上層となる漸移層での遺構検出面を仮設し、バックホーによる除去作業を行なった。ただし、遺構検出層理面が礫層となる北東角付近では非常に浅い遺構が捉えられており、調査区全体を二次堆積ローム直上層の漸移層の高さに合わせ掘削すると遺構を破壊するため一段高く掘り残して調査した。これを第2図の調査行程模式図で解説すると、調査行程3及び4にある層理面Bの土層3を半分ほど掘り下げた面で調査したことになる。調査行程4-2での不明な部分に加え遺構1の存在も遺構5の存在も不明となる。

トレンチ設定・管理: 調査区の全周に遺構検出層理面を確認、設定する為の側溝を設定した他、1) 検出された遺構のプランが適切かどうかの確認、2) 平面で検出された切り合う遺構同士の新旧関係が適切かどうかの確認等を目的とし、適宜設定し断面を観察した。設定に際しては略号TTを冠した通しの管理番号を与え台帳で管理した。

遺物回収基準: 石製遺物は人為的意図の想定し得る個体か、もしくは人為的加工痕跡が認められる個体とした。この場合自然礫も回収対象となる為、回収基準は人為的意図の想定される個体か、人為自然を問わず割れている個体とした。土製遺物は土器、土製品等である。金属製遺物は金属の可能性のある個体は全て回収した。有機遺物は動物・植物遺存体で基準は設けず回収した。

遺物回収方法: 遺構検出中に出土した個体はグリッド一括で回収した。遺構が検出された後の遺構掘削で出土した遺物は、可能な限りドット図化を行ない三次元座標記録した。過去の調査結果と本地点の試掘結果から、古代の住居跡等が存在し遺物量の多いことが予想された。そのため調査期間等から全点の遺物に対する三次元座標記録保存は不可能と判断し、原則として接合作業により確認される接合資料から分離順序の把握が可能である石製遺物及び須恵器について三次元座標記録による回収を行なった。また、現場作業時点で出土点数が比較的少量と判断し得た縄文土器及び所謂土製品等については認識した個体についてのみ三次元座標記録による回収を行なった。三次元座標記録回収遺物の管理は、遺物種を選別せずに通し番号を与え台帳登録した。また、掘削および回収作業

ミスにより原位置を留めない個体については遺構一括または遺構単位分割区一括として回収し、本作業段階でのエラーを除外するよう努めた。その他については、基本的に遺構一括または遺構単位分割区一括として回収した。また、トレンチ掘削中に遺物が出土した場合も可能な限り三次元座標記録による回収を行なった。

遺構認定基準: 遺構を土層断面または層理面上に不整合として収束した任意の土層群として認定した。基盤層の下げ取り残しやしみも原則として遺構と認定し、トレンチを設定し断面観察した後に欠番とした。

遺構検出及び管理: 最寄りの壁面もしくはトレンチにおける遺構確認層理面及び基盤層を参考にしつつ、検出作業を行なった。遺構管理番号は、遺構掘削前に推定機能名称を与える方法を取らず、遺構略号(str)を冠した通し番号を台帳登録し管理した。

遺構掘削: 遺構が切り合う場合には可能な限り切り合い部を通るよう断面観察ベルトを設定した。さらに、遺構下場が把握しにくい遺構は断面図で層理面として把握できるように、トレンチによる遺構立ち割りを行なった。

図面作成: 平面図及び断面図共に原則として1/20で作成した。作図用方眼紙は2.5mmメッシュのものをを用いた。標高計測はmm単位を四捨五入しcm単位で行なった。

写真撮影: 調査区壁面及びトレンチ断面を撮影対象とした。遺構は半截段階での土層堆積状況を撮影し、完掘状況撮影もした。遺物出土状況は、遺構掘削と遺物回収作業等の円滑化から割愛した部分が多い。

3.2. 整理作業

3.2.1. 記録整理

台帳作成: 記録種別毎に管理番号(ID)を与えて管理した。平面図と断面図は、原図IDを与え、記録内容の台帳を作成した。写真は1カット毎に管理番号を与えて作成した。

遺構統廃合: 遺構略号strを冠した管理番号で管理し、この段階で推定機能名称属性項目を与え登録した。欠番コードは、0:変更無し、1:欠番とし、欠番事由や振替情報と認定日も合わせて提示した。

3.2.2. 遺物整理

台帳作成: 三次元座標記録作業の台帳をそのまま用い個体識別番号(ID)を与えた。この段階で帰属遺構情報を「出土遺構」として登録した。遺物回収方法のうち遺構やグリッド等を単位とした一括取り上げ遺物は素材別に分離し、IDを与えた。一括取り上げ位置により、グリッド略号(TG)、検出面略号(TK)、排土(TY)の略号を用い登録した。

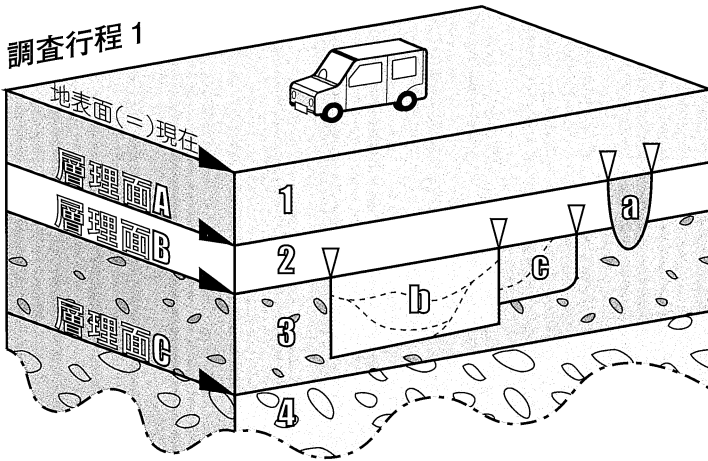
注記・属性観察: 全個体、管理番号(ID)のみ注記した。一括取り上げの石器は、先に器種分類し、礫(P)・礫片(PT)・礫片1類(PT1)を分析対象外として廃棄した後、IDのみ注記した。他は注記作業完了後、定量属性として0.1グラム単位での重量計量と、接合作業効率化を図るため定性的属性の観察をこの段階で行なった。分類は素材別で行ない、石製遺物(L)、土製遺物(P)、鉄製遺物(F)、動物遺存体(OA)とした。石製遺物は、石材及び器種だけを観察した。土製遺物の属性観察は、縄文土器(j)、弥生土器(y)、土師器(h)、須恵器(s)、近現代遺物(m)として分類し、成形及び整形技術等の痕跡や形状から推定して器形分類した。

接合: 須恵器と土師器htrの23点を対象とした。接合作業日数10日、平均稼働人数0.525人である。須恵器総点数757点のうち186点が接合した。接合率24.57%である。接合資料数は56例ある。うち遺構間接合資料は4例である。

実測: 遺構間接合資料を優先して行なった。

遺物分布図: 石製遺物は器種P・PT・PT1を除いた各器種、土製遺物は須恵器・土製品、金属製遺物について作成した。接合関係は遺構間接合資料について平面分布図のみに反映させた。垂直分布図は、仮設した面での調査のため、土層断面への投影は行わず、グリッドに並行させて作成した。これに仮設面を平均仮設面標高ラインとし図化した。

調査行程 1

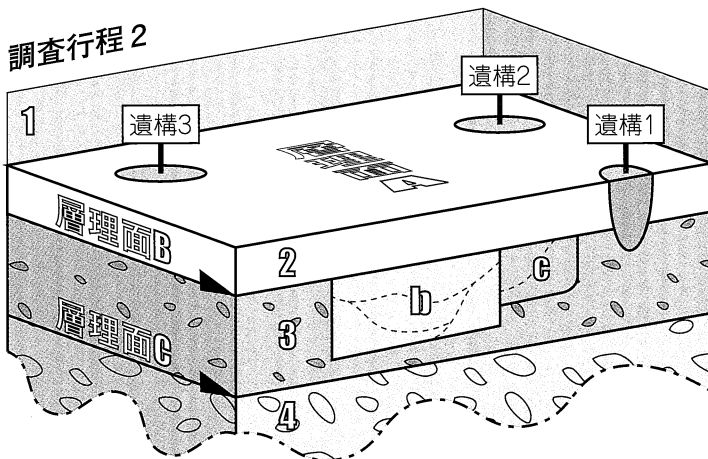


調査行程 1

堆積に見る不整合（遺構）の確認

- ①調査区の周囲にトレンチ（堆積状況確認用の溝）を深く掘り、断面をきれいに削った後、地層の堆積状況を観察する。
- ②大きく1層から4層の土層が確認できる。上の土層は下の土層より新しい（地層累重の法則）。
- ③2層の中でaの部分だけ土が違う（不整合）。aが遺構である可能性が高い。
- ④同様に3層の上面からb・cが掘り込まれている。bとcの関係も不整合である。bはcより新しいと推定できる。（切り合い関係）
- ⑤不整合が確認できる層理面の関係からb・cよりaの方が新しい。
- ⑥層理面Aと層理面Bの2つの層理面で調査を行なう必要があることがわかる。

調査行程 2

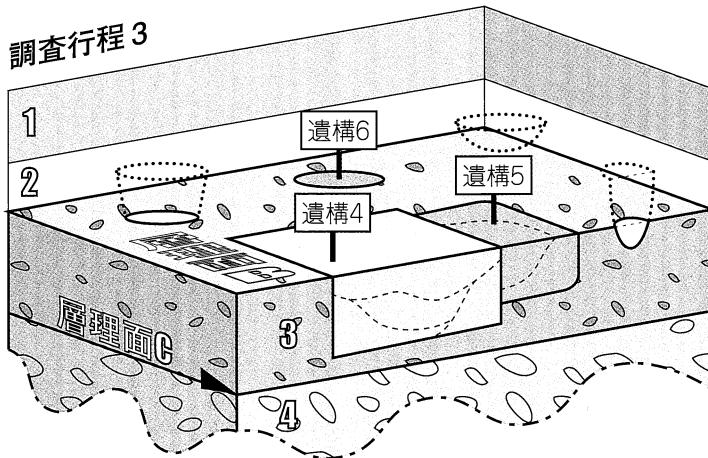


調査行程 2

層理面A（第1検出面）での調査

- ①上にある層理面から調査をしていくため、層理面Aに合わせ1層の土を除去する。
- ②aの平面形が判明し、遺構1（一定の広がりを持つ不整合）と命名する。また、トレンチにかかっていなかった遺構2・遺構3の存在が明らかになる。
- ③遺構1、遺構2、遺構3を掘削し、記録をする。

調査行程 3

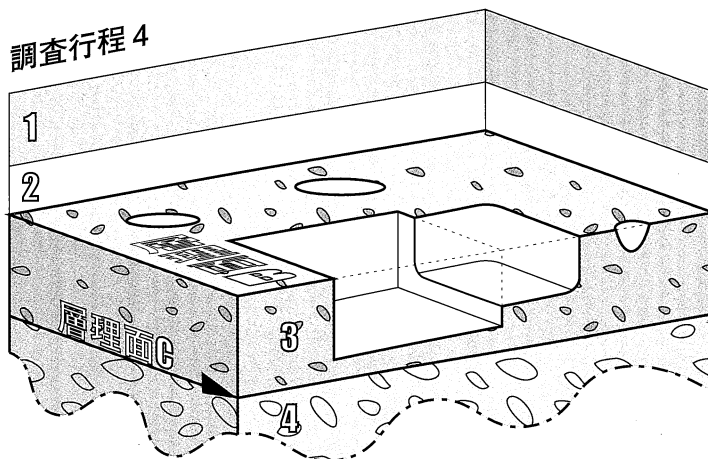


調査行程 3

層理面B（第2検出面）での調査

- ①層理面A（第1検出面）での調査終了後、層理面Bに合わせ2層の土を除去する。
- ②遺構4・遺構5の平面形が判明。遺構6の存在が明らかになる。
- ③層理面A（第1検出面）で調査した遺構1・遺構3の下部が残っている。
- ④調査行程1-④を根拠に遺構4を掘削、記録をした後、遺構5を掘削し、記録をする。

調査行程 4



調査行程 4

調査終了時の状況

- ①層理面B（第2検出面）の遺構4・遺構5・遺構6の掘削が終了した状況。
- ②もし層理面A（第1検出面）で調査を行わず、層理面B（第2検出面）でのみ調査を行った場合、遺構1・遺構3と遺構4・遺構5・遺構6の新旧の関係は不明。遺構2の存在も判らない。

第2図 調査行程模式図

4. 調査成果

本来遺存した遺跡構造を示すためすべての土層記録を優先的に提示した。埋蔵文化財は構成要素として土層があることで、存在した遺構が捉えられるからである。また、遺物も土層中にみられる礫等の含有物質の一つであり、本来なら帰属層準を提示すべきだが、前述の問題から遺構覆土はほぼ単一層となるため検討していない。以下、土層、遺構・遺物について述べていく。

4.1. 土層(第1表～第3表、第4図～第7図)

本調査では439層の土層を記録した。調査区壁の断面で確認できた全周する2面ある不整合層理の間層には、微粒ではあるが焼土と炭化物等の混入物が認められた。遺物は、新しい時期のものでセルロイドや被熱した瓦片、陶磁器片、間知石整形剥片等を含み、古い遺物では奈良時代から平安時代の土器片を含むことから、近現代において古代の遺構等がある程度破壊して攪拌された土層と判断した。調査区壁の断面ID02と03面で間層の堆積物を攪拌したとみられるU字形をする不整合が間層を置いて形成される。これらは粒径や平面で溝状に検出されることから畝跡と推定した。遺構覆土はその下層に堆積する。また、調査区南西部のstr61とした落ち込み跡は礫層直上に堆積した土層であるが、遺構としての掘り込みは確認できなかったため包含層として扱った。ただし、礫層直上に堆積するが明瞭なふい分けのみられない堆積物であったため、礫層を含めた一連の土石流堆積物として考えて良いか不明である。なお、この土層は断面ID01と04で南西方向に堆積が厚くなっていく傾向が窺える。

4.2. 遺構・遺物(第4表～第10表、第3図、第8図～第11図)

縄文時代:明確な遺構はないが、包含層としたstr61落ち込み跡は縄文時代中期前半の深鉢形土器片(以下、形土器を省略)を含むが、それより新しい時代の遺物が含まれないことから少なくとも中期前半以前に堆積した土層ではないと推定できる。str61を掘り込んだstr62畝跡でも縄文時代中期前半の深鉢片が出土している。str44穴跡は調査段階では覆土が二次堆積ローム上層にあたる漸移層が主体を成すこと、遺物も被熱破碎礫群で占められることから縄文時代にみられる集石遺構と推定していた。だが整理作業で本跡出土とされるID00666須恵器甕片1点があり、str59堅穴住居跡出土のID07305と遺構間接合した。このID00666は現場段階で確認できなかった可能性もあるが、整理作業での取り違えも想定される状況のため問題を残す。なお、被熱跡は認められない。str44は問題はあるが、覆土から縄文時代の集石遺構の可能性が高いとしておく。なお、被熱破碎礫群の石材はCrAsに限定される。また、str58堅穴住居跡から縄文時代中期前半の深鉢片が1点ある。土器の総点数は23点、平均重量6.79gである。石製遺物は、縄文時代と推定される黒曜石製石器群がstr58・59覆土中を中心に201点ある。

弥生時代:遺構及び遺物は過去の調査でも確認されていない。本調査においても遺構は未確認であるが遺物では4点ある。土器の破片は3点で、平均重量7.13gの小破片である。そのうち1点が櫛描波状文のある甕頸部片があり、弥生時代後期前半頃のものとして推定される。円盤形土製品は胎土及び焼成等から当時期のものとして推定した。これはID02018で、指頭とみられる痕跡がある。

古墳時代:推定される遺構はないが、遺物ではstr74穴跡から出土した碧玉製管玉が形態から可能性がある。

奈良・平安時代:堅穴住居跡と推定される遺構はstr01,09,20,58,59の計5箇所あり、うち収束した土層群として平面及び断面で確認された完掘し得たのはstr58のみである。str01,09,20の3箇所の堅穴住居跡はごく一部を調査しただけでその大半が調査区外へかかるため規模等は不明であり、堅穴住居跡としての機能推定にも変更

の余地を残す。なお、str01とstr09は断面ID02,03での堆積状況と平面形を推定した場合、調査区外において遺構切り合い関係(時間差)をもつ可能性がある。穴跡は、仮設面で検出されたものと遺構底面で検出されたものがある。仮設面で検出された穴跡はstr07・11・22・25・32・34・35・38・39・40・42・43・46・47・49・50・51・52・64・72の計20箇所である。遺構底面で検出された穴跡は、str58遺構底面で検出されたstr77・78・79・80・81の計5箇所とstr59遺構底面で検出されたstr69・70・71・73・74・75の計6箇所、総計11箇所である。またstr58遺構底面では周溝跡str76が検出されている。以下、堅穴住居跡と推定される遺構について箇々に記載する。遺物は土製遺物について記載する。なお、破片資料を属性観察しており、分類は貯蔵具と煮炊具、食器の大別となるが、可能なものは一部器種分類した。

str01:遺構の規模等は不明である。遺物は土製遺物に限られ、総点数72点で総重量600.8g、平均重量8.34gの破片である。種別は土師器52点、須恵器20点である。貯蔵具は須恵器甕が8点ある。煮炊具には土師器甕があり刷毛調整甕8点、カキメ調整甕3点がある。食器は、土師器杯26点と須恵器杯10点がある。土師器杯には黒色土器Aが19点含まれるが破片のため細分できない。須恵器杯は10点ある。うちID04258はstr09出土のID04226と遺構間接合する。接合資料番号R04226は杯Aで、体部は開きの強い形態と推定される。底部には回転糸切り痕がある。2点接合のため分離順序は確定しない。この資料から全資料が埋没過程で混入したとも推定される。遺構の時期は、黒色土器Aの含有量の増加と須恵器杯の含有量の低下、ならびに遺構間接合資料R04226須恵器杯Aを含むことから6期から7期と推定される。平安時代前半の9世紀中頃には埋没を完了したと推定される。

str09:遺構の規模等は不明である。遺物は石製遺物と土製遺物がある。土製遺物は総点数301点で総重量1,858.5g、平均重量6.17gの破片である。種別は土師器227点、須恵器74点である。土師器甕161点のうち、叩き調整甕が7点、叩き後刷毛調整甕が4点含まれる。この11点は、平均重量4.48gの小破片であるが土師器甕の製作に叩き技法が用いられたことの傍証となる資料である。また、器厚を篋削り技法により極薄に仕上げる所謂武蔵型甕片が10点ある。食器は、土師器杯44点と須恵器杯47点がある。土師器杯には黒色土器Aが38点含まれるが破片のため細分できない。須恵器杯は、前述の遺構間接合資料R04226杯Aを含む47点がある。遺構の時期は、黒色土器Aと須恵器杯の含有量が均衡してくる状況から5期から6期と推定される。平安時代前半の8世紀末から9世紀前半に埋没を完了していると推定される。なお、str01と切り合い関係があった場合、str09はstr01掘削段階には埋没を完了している可能性は高い。

str20:遺構の規模等は不明である。遺物は石製遺物と土製遺物がある。土製遺物は総点数155点で総重量1,376.0g、平均重量8.88gの破片である。種別は土師器151点、須恵器4点である。土師器は、煮炊具5点と器種不明の5点の計10点を除いた141点は食器である。そのうち黒色土器Aは32点であり、大半は黒色処理のされないもので占められる。黒色土器Aには小椀がみられる。須恵器は、貯蔵具の甕3点と器種不明の1点だけで食器はない。特徴として土製遺物全体に占める食器の割合は93.37%で非常に高い。遺構の時期は、食器の割合の高さ、須恵器の食器がなく黒色土器Aの小椀を含む土師器の食器で占められることから11期から12期と推定され、平安時代中頃から後半の10世紀後半から11世紀前半に埋没を完了したと推定される。

str58:平面形は一辺約5.3mの方形である。うち東辺中央付近では、部分的に内側への張り出した形状と焼土粒等を含有した堆積物から竈構築位置と考えられるが遺存していない。遺構底面で検出された遺構は平面位置関係から本堅穴住居跡に帰属する遺構と推定されstr77・78・79・80・81は柱穴跡、str76は周溝跡と推定される。遺物は石製

遺物と土製遺物がある。土製遺物は総点数2590点で総重量18,045.5g、平均重量6.97gの破片である。種別は土師器2,290点、須恵器292点の他、弥生時代と近現代の遺物を含む。近現代の遺物についてはstr57穴跡が本跡を掘り込んだものと考えられる。土師器はその大半が甕で占められ1849点ある。土師器の食器は39点である。そのうち23点は、銅椀を模倣したとみられる椀で、他の土師器と一見して選別できる緻密な胎土でロクロ成形である。底部にはロクロの回転を利用したとみられる篋削り痕跡があり、内面には磨きとみられる痕跡もある。須恵器は、貯蔵具の甕133点、食器141点、不明18点がある。食器は杯B、杯蓋Bの他、盤とも杯ともいえるR00201がある。R00201は底部は回転篋削りされたままであり、高台や脚が付加された痕跡はない。杯Bには、str59の遺構底面で検出されたstr75出土のID07745と遺構間接合した接合資料番号R05591がある。遺構間接合資料はもう一つあり、貯蔵具の甕が接合した接合資料番号R02469である。これはstr59覆土中のID07674と接合する。遺構の時期は、食器で須恵器の割合が高く、黒色土器Aを2点しか含まないことから3期から4期と推定される。奈良時代の8世紀中頃から後半には埋没を完了したと推定される。

str59:平面形は一辺約5.3mの方形と推定される。遺構底面で検出された遺構はstr69・70・71・73・74・75の穴跡である。平面位置関係から柱穴跡と推定されるのはstr69のみであり、他は不明である。遺物は石製遺物と土製遺物がある。土製遺物は総点数581点で総重量3820.2g、平均重量6.58gの破片である。種別は土師器454点、須恵器122点の他、弥生時代と近現代の遺物を含む。近現代遺物は断面04と並行して掘削したstr60畝跡からの混入と考えられる。土師器はその大半が甕で占められ384点ある。土師器の食器は4点で、うち黒色土器Aは3点である。須恵器は、貯蔵具の甕41点、食器71点、不明10点がある。食器には、接合資料R00480の盤がある他は不明である。遺構の時期は、食器で須恵器の割合が高く、黒色土器Aを3点しか含まないことから3期から4期と推定される。奈良時代の8世紀中頃から後半には埋没を完了したと推定される。ただし、遺構間接合資料R05591須恵器杯Bは遺構底面検出遺構のstr75出土破片とstr58出土破片が接合しているため、本跡の埋没完了以前にstr58は埋没を完了した可能性もある。

竪穴住居跡概観:奈良時代とみられるstr58・59の2箇所、平安時代とみられるものは3箇所あるが、str01・09は近接した時期であるが、str20は若干新しい時期である。

第1表 トレンチ一覧

トレンチ番号	トレンチが切る遺構	断面図番号	写真	欠番情報	断面図有無	設定事由及び欠番事由と備考
TT00	str_all	01,02,03,04	1	0	1	設定した調査区でTT01sectionと同じ断面
TT01	str01,08,09,16,20,21,22,29,36,40,47,49,59,60,62,63,65,67	01,02,03,04	1	0	1	遺構検出層理面確認の為
TT02	str59	05	1	0	1	str55,59切り合い関係確認及び立ち上がり確認の為
TT03	-	-	1	0	0	重機による掘削時に遺構検出層理面確認の為
TT04	str67	06	1	0	1	str67立ち上がり確認及び遺構検出層理面確認の為
TT05	str59,68,71	-	0	0	0	str59立ち上がり確認の為 / 取得漏れにより記録なし
TT06	str57,58,80	07	1	0	1	str58立ち上がり確認の為
TT07	str57,58	08	1	0	1	str57,58立ち上がり確認の為
TT08	str58	07,08	1	0	1	str58立ち上がり確認の為
TT09	str59,60	09,10	1	0	1	str59立ち上がり確認の為
TT10	str59,69	09,10	1	0	1	str59堆積状況確認の為
TT11	str72	11	0	0	1	str58,72切り合い関係確認及び立ち上がり確認の為
TT12	str58	-	0	0	0	str58立ち上がり確認の為
TT13	-	-	0	1	0	TT11断面をTT13として取得したミス、TT11に振り替えた為
TT14	str58	-	0	0	0	str58立ち上がり確認の為
TT15	str58	-	0	0	0	str58立ち上がり確認の為
TT16	str79	-	0	0	0	str79立ち上がり確認の為

第2表 断面図一覧

断面ID	写真	含有遺構番号	切合部数	観察土層数	欠番	欠番事由と備考(括弧は認定日)	取得方向	ポイント間距離(m)	図版基準標高(m)
01	1	-	0	53	-	-	S-N	12.214	610.000
02	1	str01, str09, str36, str49, str67	0	133	-	-	W-E	23.548	610.000
03	1	str01, str20	0	50	-	-	N-S	14.435	610.000
04	1	str20, str22, str59	0	83	-	-	E-W	23.002	610.000
05	1	str59	0	8	-	-	S-N	4.023	610.000
06	1	str67(ELV)	0	7	-	-	N-S	2.981	610.000
07	1	str57, str58(甕を含む), str80	2	12	-	str80は住居跡での平面位置関係から附属遺構と考えられる	W-E	6.561	610.000
08	1	str57, str58, str76	2	9	-	-	N-S	5.997	610.000
09	1	str59, str69	1	7	-	-	W-E	5.084	610.000
10	1	str59, str69	1	7	-	-	N-S	4.334	610.000
11	0	str72	0	4	-	原図平面図ではTT11。平面図に合わせ名称変更(20060426)	N-S	1.349	610.000
12	1	str03	0	2	-	-	E-W	0.510	610.000
13	1	str07	0	1	-	-	E-W	0.510	610.000
14	1	str11	0	1	-	-	S-N	0.377	610.000
15	0	str13→欠番	-	2	1	基盤層の礫間土層を遺構と誤認した為(20050510)	W-E	0.000	610.000
16	1	str22	0	2	-	TT01_Sに掛かる	S-N	0.779	610.000
17	1	str25	0	2	-	原図平面図セクションポイントの記録漏れの為位置関係不明	SE-NW	0.000	610.000

断面ID	写真	含有遺構番号	切合部数	観察土層数	欠番	欠番事由,備考	取得方向	ポイント間距離(m)	図版基準標高(m)
18	1	str32	0	1	-		NW-SE	0.560	610.000
19	1	str34	0	1	-		W-E	0.461	610.000
20	1	str35	0	2	-		NW-SE	0.774	610.000
21	1	str38,39	1	2	-		N-S	0.624	610.000
22	0	str40	0	3	-	TT01に切られる	N-S	1.115	610.000
23	1	str42,43	0	2	-		N-S	0.837	610.000
24	0	str44	0	2	-		S-N	0.951	610.000
25	1	str46	0	4	-		NW-SE	0.681	610.000
26	1	str47	0	3	-		W-S	0.676	610.000
27	1	str50,51	0	2	-	原図平面図セクションポイントの記録漏れの為位置関係不明	NE-SW	0.000	610.000
28	1	str50,51,52	2	4	-		NW-SE	0.935	610.000
29	0	str68	0	2	-		W-E	1.112	610.000
30	0	str70,71 (ELV)	1	1	-		E-W	0.833	610.000
31	1	str73,74	1	3	-		E-W	0.841	610.000
32	1	str75	0	2	-		E-W	0.675	610.000
33	1	str77	0	2	-		E-W	0.704	610.000
34	1	str78	0	3	-		E-W	1.024	610.000
35	1	str79	0	2	-	TT16での断面は未取得	E-W	0.620	610.000
36	1	str80	0	7	-		N-S	1.587	610.000
37	1	str80	0	5	-		W-E	1.435	610.000
38	1	str81, str57 (ELV)	1	3	-		S-N	1.815	610.000

第3表 土層一覧

断面ID	層ID	色相	明/彩	主体粒	副次粒1	副次粒2	礫径 (mm)	含有率	其他含有物質	備考および含有遺構
01	1	10YR	7/8	csa	si	-	10~15	1%	ロームブロック 5~10mm 1%	クレーコート客土
	2	10YR	3/3	si	csa	-	2~50	3%	3-1ブロック 1mm 1%	
	3	10YR	3/2	csa	si	-	5~20 30~100	7% 3%	1~10mm 炭化物 5%、 瓦片 2%、ビニール・レンガ 1%	
	4	10YR	3/2	si	csa	-	10~20	2%		
	5	10YR	4/3	fsa	si	-			凝礫	
	6	10YR	3/2	si	csa	-	5~20	1%		
	7	10YR	5/3	fsa	csa	-	2~10	1%		
	8	10YR	2/3	csa	si	-	5~10 50	2% 1%	火山灰粒 15%	遺構の可能性有り
	9	10YR	3/3	csa	si	-	5~10 10~40	7% 3%	土器片 1%、火山灰粒 15%	遺構の可能性有り
	10	10YR	5/3	fsa	csa	-	2~10	1%		
	11	10YR	4/3	csa	si	-	3~15	2%	1mm 焼土 2%、1~15mm 炭化物 7%、 瓦 (被熱) 1%	
	12	10YR	4/3	csa	si	-	10~20 20~30 30~40	3% 1% 1%	1~10mm 炭化物 7%	
	13	10YR	3/2	csa	fsa	si	5~30	2%	1~10mm 炭化物 2%	遺構の可能性有り
	14	10YR	4/4	fsa	si	-	100	1%		遺構の可能性有り
	15	10YR	2/3	csa	si	-	5~30	5%	1~5mm 炭化物 1%、火山灰 10%	遺構の可能性有り
	16	10YR	3/3	fsa	csa	si	10	1%		遺構の可能性有り
	17	10YR	3/3	fsa	csa	si	15	2%		遺構の可能性有り
	18	10YR	3/4	fsa	si	-	10	1%	二次堆積ローム含む	遺構の可能性有り
	19	10YR	3/3	csa	si	-	80	1%		遺構の可能性有り
	20	10YR	4/3	csa	gra	-	50	2%		
	21	10YR	3/3	csa	si	-	5~30 30~50 200	15% 2% 1%		
	22	10YR	3/4	csa	fsa	si	2~50	5%		
	23	10YR	3/3	si	fsa	csa	10~30	3%		
	24	10YR	4/3	csa	fsa	si	20~40 50	1% 1%	2~5mm 大礫主体	
	25	10YR	3/3	cla	fsa	si	5~10	1%	火山灰粒 15%	
	26	10YR	3/4	fsa	si	cla			漸移層	基盤土
	27	10YR	3/4	fsa	si	cla			漸移層	基盤土
	28	10YR	3/4	fsa	si	cla			漸移層	基盤土
	29	10YR	4/4	fsa	cla	si	10~50	2%	二次堆積ローム	基盤土
	30	10YR	3/4	csa	si	-			3-3と同じと考える	
	31	10YR	4/4	cla	si	-			3-29層、凝礫	
	32	10YR	4/3	si	csa	-			1~15mm 炭化物 1%、生根、3-3層を含む根攪乱	
	33	10YR	4/3	csa	si	-			1~5mm 炭化物 1%、3-3層を含む根攪乱	
	34	10YR	4/3	csa	si	-			1~10mm 炭化物 1%、3-3層を含む根攪乱	
	35	10YR	4.5/3	si	csa	-	20	1%	(3-4)+(3-12)3-3層を含む根攪乱	
	36	10YR	4.5/3	csa	si	-			(3-29)+(3-40) 生根あり 3-3層を含む攪乱	
	37	10YR	4/4	csa	si	-			3-3層を含む攪乱クラック分層の可能性あり	
	38	10YR	3/3	csa	si	-			生根あり 3-3層を含む攪乱	
	39	10YR	3/3	cla	si	-	5~10	2%		
	40	10YR	3/3	csa	si	-				
	41	10YR	3/3	csa	si	cla				
	42	10YR	3/4	cla	si	-			漸移層 (209、210、211)	基盤土
	43	10YR	4/3	csa	si	-			根攪乱か	
	44	10YR	4/4	si	csa	-	5~10 20	5% 1%	1~10mm 炭化物 1%、1~5mm 焼土 1%	
	45	10YR	2/3	si	csa	gra	2~30	25%	土器 1%、石器 (被熱破砕礫) 1%	

断面ID	層ID	色相	明/彩	主体粒	副次粒1	副次粒2	礫径 (mm)	含有率	その他含有物質	備考および含有遺構
01	46	10YR	2/2	csa	si	cla	2~15	2%		
	47	10YR	3/4	fsa	csa	si	2~5	1%		
	48	10YR	3/4	csa	si	-				
	49	10YR	3/2	csa	fsa	si	20~30	1%	5~10mm 大凝礫2%	
	50	10YR	4/3							
	51	10YR	3/3	gra	csa	si	2~15	3%	二次堆積ロームとの漸移層で不明瞭	基盤土
	51	10YR	3/3	gra	csa	si	30~40	2%		
	52	10YR	2/2	csa	cla	si	10~20	2%		
							50~100	1%		
	53	10YR	4/6	fsa	si	cla			二次堆積ローム	
02	1	10YR	8/8	si	csa	-	2	10%	クレーコート客土	
							20~30	2%		
	2	10YR	4/2	si	csa	-	2~5	10%	2~30mm 炭化物5%、土器混入	
							20~30	5%		
	3	7.5YR	3/1	fsa	si	csa	2~5	15%	1~5mm 炭化物3%	
	4	7.5YR	3/3	si	csa	-	2~5	10%	2~5mm 炭化物3%、ガラス・コンクリート片	
							10~20	5%	混入	
							20~50	5%		
	5	10YR	4/3	fsa	si	-	2~5	3%	2mm 炭化物1%	
							10	2%		
	6	7.5YR	3/1	si	fsa	-	2~5	5%		
							10	3%		
	7	7.5YR	3/2	si	fsa	csa	2~5	5%	1~2mm 焼土1%、2~5mm 炭化物1%	str01 覆土
							10~20	5%		
	8	7.5YR	4/3	fsa	csa	-	2~5	10%		
	9	10YR	4/3	si	csa	-	2~5	7%	1mm 焼土1%、1mm 炭化物1%	str08 覆土
							20~30	5%		
	10	10YR	3/3	si	csa	-	2~5	3%		
	11	10YR	3/3	si	csa	-	5~10	7%	1-10に酷似	
							20~30	15%		
	12	7.5YR	3/2	fsa	-	-	2~5	3%		
	13	10YR	5/4	si	csa	-	2~5	2%		
	14	10YR	4/2	si	fsa	csa	2~5	10%	1mm 焼土1%	
	15	10YR	4/2	si	fsa	csa	2~5	5%	1mm 焼土1%	
	16	10YR	4/2	si	fsa	csa	2~5	10%		
							10~30	5%		
	17	10YR	4/2	si	csa	-	2~5	2%		
							10~30	5%		
	18	10YR	4/2	si	csa	fsa	5	15%		
							10~20	15%		
	19	7.5YR	4/1	si	csa	-	2	10%	1mm 焼土1%、1mm 炭化物1%	遺構の可能性有り
	20	10YR	5/4	fsa	csa	-	2~5	3%		
							10	3%		
	21	7.5YR	4/2	fsa	csa	si	2	3%		
	22	10YR	3/3	si	csa	-	2~5	15%	1mm 焼土1%、2mm 炭化物2%	
	23	10YR	3/3	fsa	si	csa	2~5	10%	2mm 炭化物1%	
	24	10YR	3/2	si	csa	-	2~5	15%	1mm 焼土1%、1mm 炭化物1%	
							10~30	10%		
	25	7.5YR	4/2	si	csa	-	2	7%	1mm 焼土1%、1mm 炭化物1%	
	26	10YR	4/3	si	csa	-	2~5	15%		
	27	7.5YR	4/3	fsa	csa	-	2~5	5%		
							20~30	10%		
	28	10YR	4/3	si	csa	-	2~5	3%	2mm 焼土2%、2mm 炭化物1%	
							10~30	5%		
	29	10YR	4/3	si	csa	-	2~5	5%		
	30	10YR	3/3	fsa	csa	-	2~5	10%	2mm 焼土1%、2mm 炭化物2%	
							10~20	10%		
	31	7.5YR	4/2	si	csa	-	2	5%		str01 覆土
	32	7.5YR	4/2	fsa	csa	si	2	2%		
	33	7.5YR	4/3	si	csa	-	2	7%	2~5mm 炭化物7%	
	34	10YR	4/2	fsa	csa	-	2	7%		
	35	10YR	4/4	si	csa	-	2~5	15%		
							30~70	30%		
	36	10YR	4/2	fsa	csa	-	2~5	15%	1mm 焼土1%、1mm 炭化物1%	
							10~30	5%		
							50~200	20%		
	37	10YR	4/3	si	csa	-	2~5	10%	1mm 焼土1%	
	38	10YR	3/2	si	csa	-	2	5%	1mm 焼土1%、1~5mm 炭化物2%	
							10~30	20%		
	39	10YR	4/4	fsa	csa	si	2~5	15%	2~5mm 炭化物5%	
							10~30	10%		
	40	10YR	6/4	si	csa	fsa	2~5	10%		
	41	10YR	3/3	si	csa	-			1mm 焼土1%、1mm 炭化物2%	
	42	10YR	4/3	si	csa	-	2~5	10%	1mm 焼土1%、1~2mm 炭化物1%	
							30~50	10%		
	43	10YR	3/2	fsa	csa	-	2	5%		
	44	10YR	4/3	si	csa	-	2~5	3%	1mm 焼土2%、1mm 炭化物3%	
	45	-	-/-	-	-	-	-	-	-	コンクリート塊
	46	10YR	3/4	si	csa	-	2~5	10%	2mm 焼土2%、1~2mm 炭化物1%	
							20~30	10%		
	47	10YR	4/4	si	csa	-	30	10%		

断面ID	層ID	色相	明/彩	主体粒	副次粒1	副次粒2	礫径 (mm)	含有率	その他含有物質	備考および含有遺構
02	48	10YR	4/2	si	csa	-	2~5 20~30	7% 10%	1mm炭化物1%	
	49	10YR	4/4	fsa	csa	-	2	3%	1mm炭化物1%	
	50	10YR	4/3	si	csa	-	2~5	10%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	
	51	10YR	3/3	fsa	csa	-	2~5	15%	1mm焼土1%	
	51	10YR	3/3	fsa	csa	-	10~20	5%		
	52	10YR	3/2	si	csa	fsa	2~5 20~30	15% 7%		
	53	10YR	6/4	si	csa	fsa	2~5 10~20	7% 3%		
	54	10YR	3/3	fsa	csa	-	2~5	10%		
	55	10YR	4/3	fsa	csa	si	2	1%	1mm炭化物1%	
	56	10YR	4/4	si	csa	fsa	2~5 10~30	7% 5%		
	57	10YR	3/3	si	csa	-	2~5 20	7% 5%		
	58	10YR	4/2	fsa	csa	si	2~5 10~30	40% 20%		
	59	10YR	4/4	si	csa	-	2~5 20~50	5% 15%		
	60	10YR	3/3	si	csa	fsa	2~5	10%		遺構の可能性有り
	61	10YR	4/3	fsa	csa	-	2	15%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	遺構の可能性有り
	62	10YR	5/4	fsa	csa	-	2~5	10%	1mm炭化物1%	遺構の可能性有り
	63	10YR	5/3	fsa	csa	-	10~20 70	20% 5%	1~2mm焼土2%	
	64	10YR	4/3	fsa	si	csa	2	10%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	
	65	10YR	4/2	si	csa	-	2	2%		
	66	10YR	4/3	fsa	csa	-	2~5 10~30	20% 10%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	
	67	10YR	4/3	si	csa	-	2~5 10~30	10% 3%		
	68	10YR	5/4	si	csa	fsa	2~5 20~30	7% 5%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	遺構の可能性有り
	69	10YR	4/3	fsa	csa	-	2~5	5%	1mm炭化物1%	
	70	7.5YR	4/3	si	csa	-	2~5 30	20% 5%	1mm炭化物1%	
	71	10YR	4/3	fsa	csa	-	2~5 10 20~50	5% 5% 5%	1mm焼土1%	
	72	10YR	5/4	fsa	csa	-	2~5	10%	71と同層	
	73	10YR	5/4	si	csa	-	2~5	5%	2~5mm炭化物1%	
	74		/							
	75	10YR	3/2	si	csa	-	2~5 10~30	3% 2%	5mm炭化物5%	
	76	10YR	5/3	gra	uk	-	2~5 100~200	20% 50%		
	77	10YR	3/3	fsa	csa	-	5	10%		
	78	10YR	5/3	si	csa	-	2~5 20~50	5% 10%		
	79	10YR	5/3	gra	fsa	csa	2 10~20 20~50	15% 30% 30%		
	80	10YR	4/3	si	csa	-	2~5	3%		
	81	10YR	4/4	si	csa	-	10~20	15%		
	82	10YR	4/6	fsa	csa	si	2~5	10%	1mm炭化物1%	
	83	10YR	4/3	si	csa	-	2~5 10~30 50~100	10% 5% 5%	1mm焼土1%、1~10mm炭化物7%	
	84	7.5YR	3/3	si	csa	-	2	7%		
	85	10YR	4/6	si	csa	-	2~5	5%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	str67覆土
	86	10YR	5/3	gra	si	csa	5 20~50 70~200	5% 10% 60%		str67覆土
	87	10YR	4/3	fsa	csa	-	2~5 10~20 100	3% 3% 15%		
	88	7.5YR	4/3	si	csa	-	2	5%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	str67覆土
	89	7.5YR	4/2	fsa	csa	-	5	3%	1mm焼土1%	str67覆土
	90	10YR	4/3	si	csa	fsa	2~5 10~30 50	5% 3% 3%		
	91	10YR	5/4	gra	csa	fsa	2~5 10~50 200	15% 40% 30%		
	92	10YR	3/3	fsa	csa	-	2~5 20~50 100~200	10% 10% 7%	2~5mm炭化物7%、ビニール・プラスチック含む	
	93	10YR	5/4	si	csa	fsa	2~5 10~20	3% 3%	1-107に酷似	
	94	10YR	3/3	fsa	csa	-	2~5	7%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	

断面ID	層ID	色相	明/彩	主体粒	副次粒1	副次粒2	礫径 (mm)	含有率	その他含有物質	備考および含有遺構
02	94	10YR	3/3	fsa	csa	-	10~20	5%		
	95	10YR	6/6	gra	si	csa	2~5	50%		
							100~200	30%		
	96	7.5YR	3/3	si	csa	-	2	3%		
							10	3%		
	97	10YR	5/4	si	fsa	csa	2	2%		
							10~20	3%		
	98	10YR	6/6	gra	si	csa	10~30	60%		
	99	10YR	4/3	si	csa	-	2	10%		
							10~20	7%		
	100	10YR	3/4	si	csa	-	2	20%	1mm炭化物1%	str49 覆土
							10	5%		
	101	10YR	3/2	fsa	csa	-	2	5%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%10YR6/6を5~10mm大ブロック状に10%含む	str49 覆土
	102	10YR	4/2	si	csa	-	2	3%	1mm焼土1%	str49 覆土
	103	10YR	4/3	si	csa	-	2	5%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	
							10	3%		
	104	10YR	3/4	si	csa	fsa	2~5	7%	1mm焼土1%	
							10~30	7%		
	105	10YR	4/3	fsa	csa	-	2	3%		
	106	10YR	5/4	si	csa	-	2	2%		
							30~50	7%		
	107	10YR	4/4	si	csa	-	20~30	20%	1mm炭化物2%	
	108	10YR	4/4	fsa	csa	si	2	5%	1mm炭化物1%	
	109	10YR	5/4	si	csa	fsa	20	10%	1-91に酷似	
	110	10YR	4/2	si	csa	-	2~5	15%	2~5mm炭化物3%、レンガ混入	
							20~30	20%		
	111	10YR	3/4	si	csa	-	2	5%		
	112	10YR	4/3	si	csa	-	5~10	20%		
	113	10YR	5/4	si	csa	-	2	2%	1mm焼土1%	
	114	10YR	4/3	si	csa	-	2~5	10%	5~10mm炭化物3%、レンガ混入	
							10~30	10%		
	115	10YR	4/6	fsa	csa	-	2~5	7%	1mm炭化物1%	
	116	7.5YR	4/3	gra	si	csa	2~5	30%		
20~30							15%			
50~150							20%			
117	7.5YR	4/3	si	csa	-	2~5	3%			
118	10YR	4/3	fsa	csa	-	2~5	15%			
						20~30	7%			
119	10YR	5/4	gra	si	csa	5	60%			
						20~30	30%			
120	10YR	5/4	gra	si	csa	2~5	40%			
						20~30	20%			
						50~100	15%			
121	10YR	5/4	si	csa	fsa	2~5	10%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%		
122	10YR	4/3	fsa	csa	si	2~5	3%	1mm焼土1%		
						30~50	15%			
123	10YR	5/4	fsa	csa	si	2	5%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%		
124	10YR	5/4	si	csa	-	2	10%	1mm炭化物1%		
						50~100	20%			
125	10YR	3/3	si	csa	fsa	5	5%	1mm焼土1%		
126	10YR	6/6	csa	si	-	2~5	30%			
						10~20	30%			
127	10YR	5/4	gra	csa	fsa	2~5	30%			
						20~30	20%			
						70~200	40%			
128	7.5YR	5/3	si	csa	-	10	5%	1mm焼土1%		
						20~30	10%			
129	10YR	5/4	si	csa	fsa	5	10%			
130	7.5YR	4/3	si	csa	-	2	2%			
						50	20%			
131	7.5YR	4/3	si	csa	fsa	2	7%			
						10	5%			
132	7.5YR	4/3	si	csa	-	2	3%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%		
133	10YR	7/1	si	csa	-	2~5	50%			
03	1	10YR	8/8	si	csa	-	2~5	18%	クレーコート客土	
							10~30	30%		
	2	7.5YR	4/2	fsa	si	csa	2	15%	2~3mm炭化物7%	
	3	7.5YR	3/1	fsa	si	-	2~5	15%	5mm炭化物5%	
							20~30	2%		
	4	7.5YR	4/1	fsa	csa	si	2	20%		
							10~30	7%		
	5	10YR	4/2	fsa	si	csa	5~10	7%		
							50~70	50%		
6	10YR	4/3	fsa	si	csa	10	2%	1~2mm炭化物1%		
						10	2%			
7	7.5YR	3/2	si	fsa	csa	10~20	5%	1mm焼土1%、2~5mm炭化物1%	str01 覆土	
8	7.5YR	4/3	gra	csa	si	2~5	50%			
						20~50	20%			
						100~200	15%			
9	10YR	4/2	fsa	csa	si	5~10	5%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%		

断面ID	層ID	色相	明/彩	主体粒	副次粒1	副次粒2	礫径 (mm)	含有率	その他含有物質	備考および含有遺構
03	9	10YR	4/2	fsa	csa	si)	10~30	30%		
	10	10YR	4/3	fsa	csa	si	2~5	2%	1mm 炭化物 1%	
	11	7.5YR	4/2	csa	fsa	-	5	20%	2mm 炭化物 7%	
	12	7.5YR	3/2	fsa	csa	-				
	13	10YR	4/4	si	csa	fsa	2~5	3%	1mm 炭化物 2%	
	14	7.5YR	3/2	fsa	csa	si	2~5	20%	1mm 炭化物 1%	
	15	10YR	5/3	fsa	csa	-	2~5	5%	1mm 焼土 1%	
	16	10YR	3/3	fsa	csa	-	2~5	2%	1mm 焼土 1%、2~20mm 炭化物 20%	
	17	10YR	4/2	fsa	csa	si	2~5	8%	1mm 焼土 1%、2~5mm 炭化物 3%	
	18	7.5YR	5/1	csa	si	fsa	2	30%	1~2mm 炭化物 30%	
	19	7.5YR	5/1	csa	si	fsa	2~5	20%	1~5mm 炭化物 15% 2-18 に酷似	
	20	7.5YR	5/1	csa	si	fsa	2~5	15%	2~5mm 炭化物 40% 2-18、2-19 に酷似	
	21	10YR	6/1	csa	fsa	-	2~5	10%	1~10mm 炭化物 20%	
	22	10YR	6/1	csa	fsa	-	2~5	15%	2~5mm 炭化物 7%	
	23	7.5YR	4/2	gra	csa	fsa	20~50	50%		
							50~70	10%		
	24	7.5YR	4/2	gra	csa	fsa	20~50	40%	2-23 に酷似	
							50~100	15%		
	25	10YR	3/4	fsa	csa	-				
	26	10YR	4/3	fsa	gra	csa	2~5	7%	1mm 焼土 1%、1mm 炭化物 1%	
							20~50	20%		
							50~100	20%		
	27	10YR	4/4	si	csa	-	5~10	10%	1mm 焼土 1%	
	28	10YR	3/3	fsa	csa	si	2~5	5%	1mm 炭化物 1%	
	29	7.5YR	4/2	gra	fsa	csa	2~5	30%		
							20~50	20%		
							50~100	20%		
	30	10YR	3/4	fsa	si	csa			1~10 炭化物 13%	
	31	7.5YR	6/1	csa	gra	-	2	40%	2~5mm 炭化物 7% 2-22 に酷似	
	32	7.5YR	3/3	fsa	csa	-	2~5	20%		
							20~50	15%		
	33	7.5YR	4/3	fsa	csa	si	2	5%		
							20~50	7%		
	34	7.5YR	3/2	fsa	csa	-	2~5	15%		
							20~50	10%		
	35	10YR	4/4	si	csa	-	2~5	3%	1mm 炭化物 1%	
	36	7.5YR	4/3	fsa	si	csa	2~5	3%	1mm 焼土 1%、1~5mm 炭化物 1%	
							10~30	10%		
	37	7.5YR	4/1	si	fsa	csa	2	5%		
							10~20	5%		
	38	10YR	3/3	fsa	csa	-	2~5	3%	1mm 焼土 1%	str20 覆土
	39	10YR	3/2	fsa	csa	-	2~5	15%	1mm 焼土 2%、1mm 炭化物 1%	str20 覆土
							20~50	7%		
							50~100	10%		
	40	10YR	3/4	fsa	csa	-	2	10%	1mm 焼土 1%、土器混入	str20 覆土
	41	7.5YR	3/2	fsa	csa	-	2	3%	1mm 焼土 1%	str20 覆土
	42	7.5YR	4/2	si	csa	fsa	2~5	10%	1mm 焼土 1%、1mm 炭化物 1%	
							20~50	15%		
	43	7.5YR	4/3	si	csa	-	2~5	10%	1mm 焼土 1%、2~5mm 炭化物 2%	str20 覆土
	44	7.5YR	3/2	fsa	csa	-	2~5	10%	1mm 焼土 1%	str20 覆土
						20~30	10%			
45	10YR	3/3	si	csa	fsa	5	10%	1mm 焼土 1%	str20 覆土	
						20~50	10%			
						100~200	15%			
46	7.5YR	3/3	gra	csa	fsa	10~30	20%		str20 覆土	
						30~70	2%			
						200	50%			
47	10YR	4/3	gra	fsa	csa	2~5	30%		str20 覆土	
						10	10%			
						100	40%			
48	7.5YR	4/2	si	csa	-	2	3%		str20 覆土	
						10~30	10%			
49	10YR	3/3	fsa	csa	-	2~5	20%			
						50~100	20%			
50	10YR	3/3	si	csa	fsa	2	5%			
04	1	10YR	8/8	si	csa	-	2~5	18%	クレークコート客土	
	17	10YR	4/2	fsa	csa	si	2~5	8%	1mm 焼土 1%、2~5mm 炭化物 3%	
	31	7.5YR	6/1	csa	fsa	-	2	40%	2~5mm 炭化物 7%	
	36	7.5YR	4/3	fsa	si	csa	2~5	3%	1mm 焼土 1%、1~5mm 炭化物 1%	
							10~30	10%		
	40	10YR	3/4	fsa	csa	-	2	10%	1mm 焼土 1%、土器	str20 覆土
	45	10YR	3/3	si	csa	fsa	5	10%	1mm 焼土 1%	str20 覆土
							20~50	10%		
							100~200	15%		
	49	10YR	3/3	fsa	csa	-	2~5	20%		
						50~100	20%			
61	10YR	4.5/5	fsa	si	-	2~10	3%			
62	10YR	4/4	fsa	si	csa	2~5	7%			
63	10YR	4/4	fsa	si	csa	2~10	5%			
64	10YR	3.5/2	fsa	si	csa	2~5	3%			
						200	1%			

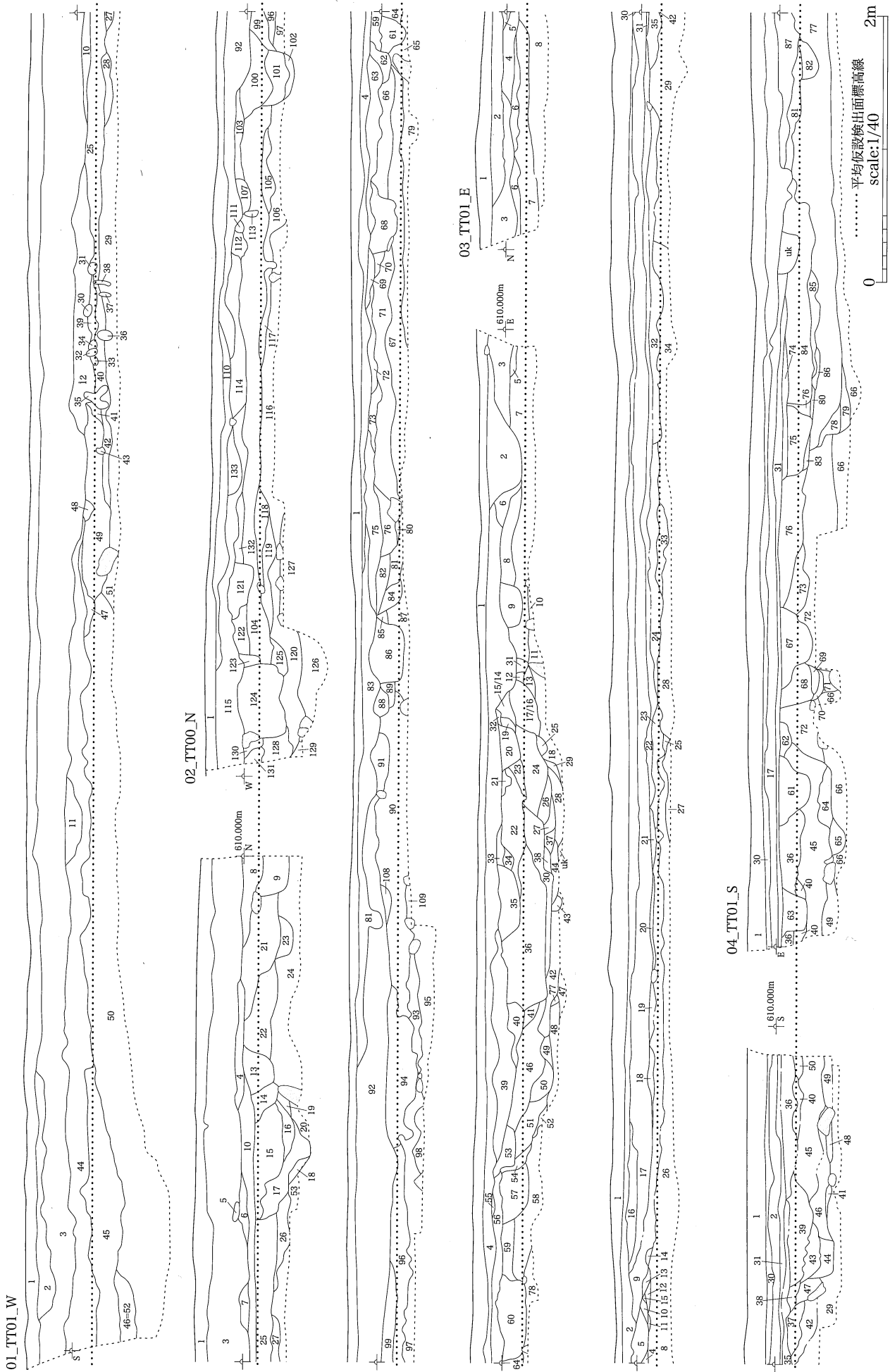
断面ID	層ID	色相	明/彩	主体粒	副次粒1	副次粒2	礫径 (mm)	含有率	其他含有物質	備考および含有遺構
04	65	10YR	3/3	fsa	si	csa	2~10	5%		
	66	10YR	5.5/5	csa	si	-	5~10	15%		
							50~500	20%		
	67	10YR	4/5	fsa	si	csa	2~10	3%		
	68	10YR	3/2	fsa	si	csa	2~50	7%		
	69	10YR	3.5/2	fsa	si	csa	2~100	3%		
	70	10YR	4.5/2	fsa	si	csa	2~100	7%		
	71	10YR	5/2	fsa	si	csa	2~50	10%		
	72	10YR	4.5/3	fsa	si	csa	2~30	10%		
	73	10YR	3.5/3.5	fsa	si	csa	2~20	10%		
	74	10YR	5/3	fsa	si	csa	2~5	5%		
	75	10YR	4.5/3	csa	si	fsa	2~200	15%	5~30mm炭化物10%	
	76	10YR	4.5/2.5	fsa	si	csa	2~5	3%		
							50~200	3%		
	77	10YR	3.5/2	fsa	si	csa	2~30	7%		
	78	10YR	3/2	fsa	si	-	5~20	10%		
	79	10YR	3/2.5	fsa	si	csa	2~30	5%		
	80	10YR	4.5/3	fsa	si	cla	2~10	1%		
	81	10YR	6/3	fsa	si	csa	2~20	5%		
	82	10YR	5/4	fsa	si	-	2~30	5%		
	83	10YR	5/4	fsa	si	-	2~20	5%		
	84	10YR	4.5/3	csa	si	fsa	2~200	15%		
	85	10YR	4/2.5	fsa	si	cla	2~5	3%		
	86	10YR	3.5/2.5	fsa	si	cla	2~20	5%		
	87	10YR	5/3	fsa	si	csa	2~30	7%		
	88	10YR	5.5/4	fsa	si	cla	2~10	3%		
	89	10YR	3.5/2	fsa	si	csa	2~30	10%		
	90	10YR	3/3	fsa	si	cla	5~20	15%		
	91	10YR	3.5/3	fsa	si	cla	2~20	5%		
	92	10YR	3.5/1.5	fsa	si	csa	2~20	5%		
	93	/	/	/	/	/	/	/	uk	基盤土
	94	10YR	4/1	fsa	si	csa	2~30	10%	4-1のブロック径5~10mmを5%	
	95	10YR	4/2	fsa	si	-	5~20	5%	5~30mm炭化物15%	
	96	10YR	3.5/1	fsa	si	-	-	-	-	
	97	10YR	4.5/1.5	fsa	si	-	5~10	10%		
	98	10YR	4.5/1.5	fsa	si	-	5~10	10%		
	99	10YR	2.5/3	fsa	si	-	5~500	30%	コンクリート片、瓦片	
	100	10YR	4.5/3	fsa	si	csa	2~100	7%		
	101	10YR	4/1.5	fsa	si	-	10~20	30%		
	102	10YR	4/4	fsa	si	csa	2~50	2%		
	103	10YR	3.5/1.5	fsa	si	-	2~100	15%		
	104	/	/	/	/	/	/	/	uk	基盤土
	105	/	/	/	/	/	/	/	uk	基盤土
	106	/	/	/	/	/	/	/	uk	基盤土
	107	10YR	4/2	fsa	si	csa	2~50	10%	瓦片	
	108	10YR	5/2	fsa	si	-	5~20	10%	4-1ブロック径5~30mmを10%	
	109	10YR	4/1.5	fsa	si	csa	2~30	7%		
	110	10YR	3.5/2	fsa	si	-	2~50	10%		
	111	10YR	7/8	fsa	csa	-	2~50	5%		
	112	10YR	4/2.5	fsa	si	csa	2~30	3%		
	113	10YR	3.5/2.5	fsa	si	csa	2~50	5%	5~20mm炭化物40%	
	114	10YR	4/5	fsa	si	cla	2~10	3%		
	115	10YR	4.5/2.5	fsa	si	csa	2~30	20%	ビニール片含む	
	116	10YR	4.5/5	fsa	si	cla	2~5	3%		
	117	10YR	5/6	fsa	si	cla	5~20	5%		
	118	10YR	4/4.5	fsa	si	cla	2~20	3%		
	119	10YR	4/5	fsa	si	cla	2~5	3%		
	120	10YR	5/6	fsa	si	cla	2~5	5%		
	121	10YR	4/5	fsa	si	cla	2~5	3%		
	122	10YR	4/4.5	fsa	si	cla	2~10	3%		
	123	10YR	5/6	fsa	si	cla	2~5	3%		
	124	10YR	4/3.5	fsa	si	csa	2~10	3%		
	125	10YR	4/5	fsa	si	cla	2~5	3%		
	126	10YR	3.5/3	fsa	si	cla	2~30	5%		
	127	10YR	3.5/3.5	fsa	si	cla	2~30	3%		
	128	10YR	3.5/3.5	fsa	si	cla	2~30	3%		
	129	10YR	3.5/2	fsa	si	cla	5~20	7%		
	130	10YR	5/3.5	uk	uk	uk	2~10	3%		
	131	10YR	2.5/3	uk	uk	uk	2~10	3%		
	132	10YR	3.5/2.5	uk	uk	uk	2~100	10%		
	133	10YR	3.5/1	fsa	si	cla	2~300	10%		
	134	10YR	3.5/1.5	fsa	si	csa	2~200	15%		基盤土
	135	10YR	6.5/8	csa	fsa	-	5~500	20%		基盤土
	30	10YR	3/4	fsa	si	csa	-	-	1~10炭化物13%	
05	1	10YR	5/3	fsa	si	-	3~30	40%		str55覆土
	2	10YR	4/2	fsa	cla	-	3~10	1%		
	3	7.5YR	4/3	fsa	cla	csa	-	-		str59覆土
	4	7.5YR	3/2	fsa	cla	csa	2	7%		str59覆土
	5	7.5YR	3/2	fsa	cla	-	-	-	焼土50%	
	6	10YR	5/4	fsa	si	cla	2	7%		
	7	10YR	5/6	fsa	csa	si	2~5	30%		

断面ID	層ID	色相	明/彩	主体粒	副次粒1	副次粒2	礫径 (mm)	含有率	その他含有物質	備考および含有遺構
05	8	10YR	6/6	fsa	si	cla	2~3	2%		
06	1	10YR	3/2	fsa	csa	-	2~5	1%	焼土を不整形に10%含む	
	2	10YR	3/1	fsa	csa	-	2~5	10%		
	3	7.5YR	3/3	fsa	si	csa	2~5	15%		
	3	7.5YR	3/3	fsa	si	csa	20~50	15%		
	4	7.5YR	4/3	fsa	csa	-	2~5	7%		
							10	7%		
	5	10YR	4/4	fsa	gra	-	2~5	40%		
						20~50	15%			
	6	7.5YR	3/2	fsa	si	-	5~10	3%		
	7	10YR	4/4	fsa	gra	-	30~50	50%	23-5に酷似	
07	1	7.5YR	3/3	fsa	csa	si	2	10%	5YR6/6を1mm程度のブロック状に3%含む	str58覆土
							2~5	7%	1mm炭化物1%	
							20~50	10%		
	2	10YR	3/4	si	csa	-	2	2%	1mm炭化物1%	
							20	5%		
	3	10YR	3/3	si	csa	fsa	2~5	5%	5YR6/6を1mm程度のブロック状に2%含む	str58覆土
							20~50	7%		
	4	10YR	3/4	gra	fsa	csa	2~10	50%		str58覆土
							20	7%		
	5	7.5YR	3/4	fsa	si	csa	2	2%	1mm焼土3%、1mm炭化物1%	str58覆土
						20	2%			
	6	10YR	3/2	fsa	csa	si	2	3%	2mm焼土3%	str58覆土
	7	10YR	4/2	gra	fsa	csa	2~5	10%		基盤土
							20~50	40%		
							50~100	10%		
	8	7.5YR	3/1	si	csa	-	2~5	3%	1~2mm焼土1%、1~2mm炭化物1%	str58覆土
							20~50	7%		
	9	10YR	3/3	si	csa	fsa	2	2%	1mm焼土1%、1~2mm炭化物2%	str58覆土
							20~50	10%		
	10	10YR	3/2	si	cla	fsa			1mm炭化物1%	str58覆土
	11	10YR	6/6	si	csa	fsa	2~5	2%		基盤土
	20	/	/							uk
08	12	10YR	3/3	si	fsa	csa	2~5	5%		str58覆土
	13	10YR	4/2	si	fsa	csa	2~5	5%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	str58覆土
							20~50	5%		
	14	10YR	4/2	si	csa	fsa	2	1%	1mm炭化物2%10YR6/6を2~5mm程度のブロック状に40%含む	str58覆土
	15	10YR	6/4	si	csa	-	2	1%		基盤土
	16	10YR	4/2	gra	fsa	csa	2~5	20%		基盤土
							5~10	10%		
							20~50	10%		
	17	10YR	4/2	si	csa	fsa	2~5	7%	1mm炭化物1%10YR5/6を不整形ブロック状に40%含む	str57覆土
							20~50	10%		
18	10YR	4/2	si	csa	fsa	2~5	10%	1mm炭化物1%10YR5/6を不整形ブロック状に20%含む	str57覆土	
	19	10YR	3/1	si	csa	fsa	2~5	5%		str57覆土
						30	5%			
	3	10YR	3/3	si	csa	fsa	2~5	5%	5YR6/6を1mm程度のブロック状に2%含む	str58覆土
						20~50	7%			
09	2	10YR	3/2	si	csa	fsa	2~5	20%	2~5mm焼土1%、2~10mm炭化物1%	
							30~50	7%		
	5	10YR	3/3	si	csa	fsa	2~5	1%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	
							30~70	10%		
	6	10YR	3/3	fsa	csa	si				
	7	10YR	3/2	fsa	si	csa				
	8	10YR	4/2	si	csa	gra	2~5	15%		
							5~10	30%		
	1	10YR	5/4	fsa	csa	si	20~30	3%		
	2	10YR	3/2	si	fsa	csa	2~5	20%	2~5mm焼土1%、2~10mm炭化物1%	
						30~50	7%			
10	9	10YR	4/2	si	csa	gra	2~5	15%		
							10~30	40%		
	2	10YR	3/2	si	csa	fsa	2~5	20%	2~5mm焼土1%、2~10mm炭化物1%	
							30~50	7%		
	3	10YR	3/3	fsa	si	csa	2~5	7%	1~2mm焼土1%	
							10~20	10%		
							30~100	10%		
	4	10YR	3/3	si	csa	-	2~5	1%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	
						10~30	10%			
	5	10YR	3/3	si	csa	fsa	2~5	1%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	
						30~70	10%			
	1	10YR	5/4	fsa	csa	si	20~30	3%		
	2	10YR	3/2	si	fsa	csa	2~5	20%	2~5mm焼土1%、2~10mm炭化物1%	
						30~50	7%			
11	1	10YR	4/2	fsa	si	csa	2~5	10%	1mm焼土1%、1mm炭化物1%	
	2	10YR	6/6	si	fsa	csa	2	1%		
	3	10YR	4/3	fsa	si	csa	5	1%		
	4	10YR	4/4	fsa	si	csa	2	10%	1mm焼土1%	
12	1	7.5YR	3/1	fsa	si	-	2~5	15%		str03覆土
	2	10YR	6/6	si	fsa	csa				基盤土

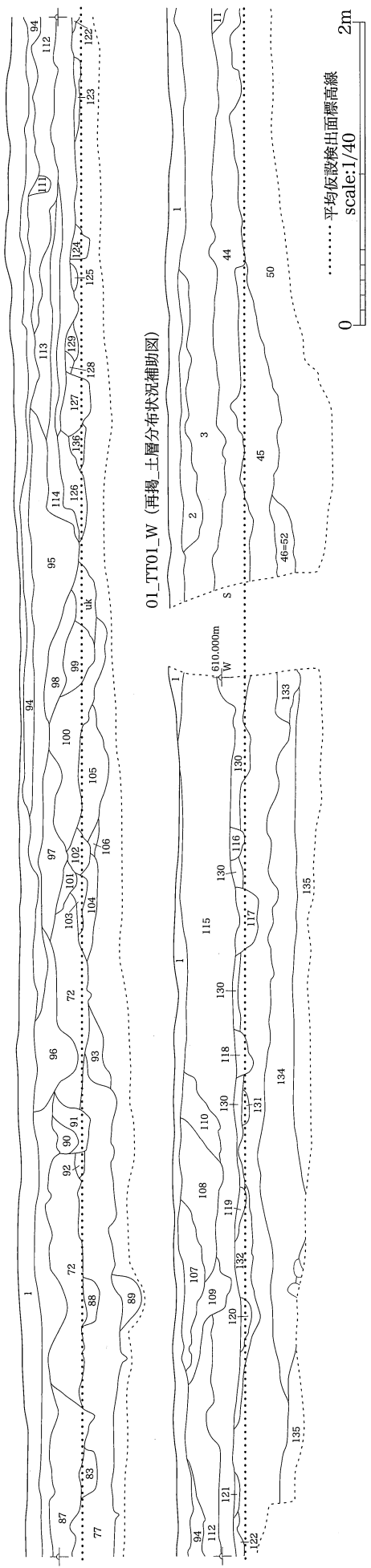
断面ID	層ID	色相	明/彩	主体粒	副次粒1	副次粒2	礫径 (mm)	含有率	その他含有物質	備考および含有遺構
13	1	7.5YR	3/2	fsa	si	-				
14	1	10YR	3/1	fsa	si	csa				
15	1	10YR	3/1	fsa	si	csa				
	2	10YR	5/4	fsa	si	csa				
16	1	7.5YR	3/2	fsa	si	cla			炭化物・焼土粒 1%	str22 覆土
	2	10YR	5/3	fsa	si	cla				str22 覆土
17	1	10YR	3/2	fsa	csa	-				str25 覆土
	2	/	/						uk	
18	1	10YR	3/2	si	fsa	csa	2~5	3%		
19	1	10YR	3/2	si	fsa	csa	2~5	5%		
20	1	7.5YR	3/2	si	fsa	csa	2~5	10%		str35 覆土
	2	7.5YR	3/2	si	fsa	csa				
21	1	7.5YR	3/1	fsa	si	csa			10YR6/6si(fsa)を不整形に10%含む	str38 覆土
	2	7.5YR	4/1	fsa	si	csa			10YR6/6si(fsa)を不整形に20%含む	str39 覆土
22	1	10YR	3/1	fsa	si	csa	5~10	5%		str40 覆土
	2	10YR	4/1	fsa	si	csa	2~5	1%		str40 覆土
	3	10YR	6/6	si	fsa	csa				基盤土
23	1	7.5YR	3/3	fsa	si	cla	10~20	1%		str43 覆土
	2	10YR	3/2	fsa	csa	si	2	7%		str42 覆土
24	1	10YR	3/2	si	csa	fsa	2~5	2%		str44 覆土
	2	10YR	3/2	si	csa	fsa	2~5	2%	1~2mm 焼土 1%、1~3mm 炭化物 1%	str44 覆土
25	1	7.5YR	3/2	fsa	si	csa				
	2	7.5YR	3/1	fsa	si	csa	2	3%		
	3	7.5YR	3/1	si	fsa	csa	2	4%		
	4	10YR	5/6	si	fsa	csa	2~5	2%	7.5YR3/1si(fsa)を縞状に30%含む	
26	1	7.5YR	3/1	si	fsa	csa	2	5%		
	2	10YR	4/2	si	fsa	-	2~5	2%	10YR6/6si(fsa)を縞状に30%含む	
	3	7.5YR	3/2	si	fsa	csa				
27	1	10YR	4/2	si	fsa	csa	2~5	1%	10YR6/6si(fsa)を不整形に30%含む	str50 覆土
	2	10YR	4/1	si	fsa	csa	2~5	1%		str50 覆土
28	1	10YR	4/1	fsa	si	csa			10YR6/6si(fsa)を不整形に20%含む	str52 覆土
	2	10YR	4/1	si	fsa	csa	2~5	1%		str50 覆土
	3	7.5YR	3/1	fsa	si	csa	5~10	1%		str51 覆土
	4	7.5YR	3/1	si	fsa	csa			10YR6/6si(fsa)を不整形に35%含む	str51 覆土
29	1	7.5YR	3/2	si	csa	fsa	2~5	10%	1mm 焼土 2%、1mm 炭化物 1% 10YR6/4を	str68 覆土
							5~10	7%	2~5mm 程度のブロック状に含む	
	2	7.5YR	3/1	si	csa	-	2~5	7%	1mm 焼土 1%、1mm 炭化物 2%	str59 覆土
							10~20	10%		
30	1	7.5YR	3/3	fsa	csa	fsa	2	10%	1mm 炭化物 1%	str71 覆土
							20	3%		
31	1	10YR	3/2	si	csa	-	2~5	30%	1mm 炭化物 2%	str74 覆土
	2	10YR	3/3	si	-	-	2	2%		str74 覆土
	3	10YR	3/3	si	csa	fsa	2~5	15%	1~2mm 炭化物 1%	str74 覆土
							5~10	10%		
							50~70	15%		
32	1	10YR	4/2	si	fsa	csa	2	7%	1mm 炭化物 1%、10YR6/6を不整形に20%含む	str75 覆土
	2	10YR	6/6	si	fsa	csa	2~5	3%		基盤土
33	1	7.5YR	3/2	fsa	csa	fsa	2~5	3%	1mm 焼土 2%。5YR5/6を2~5mm 程度の	
							50~70	30%	ブロック状に5%含む	
	2	10YR	4/3	si	fsa	csa	5~10	15%		
							30~50	10%		
34	1	10YR	3/2	fsa	csa	si	2~5	10%	1mm 焼土 1%、1mm 炭化物 1%	
							5~10	10%		
							20~50	7%		
	2	10YR	4/3	si	csa	fsa	2	20%		
							10~30	20%		
	3	10YR	3/2	si	csa	-	2~5	10%		
							10~30	5%		
35	1	10YR	3/2	si	csa	fsa	5	10%	1mm 焼土 1%	
	2	10YR	2/3	si	csa	-	5	2%	1mm 焼土 1%、1mm 炭化物 1%	
36	1	10YR	3/2	fsa	csa	-	2	5%	1mm 焼土 1%、1mm 炭化物 1%	
							5~10	3%		
	2	10YR	3/2	fsa	csa	-	2	1%	1mm 焼土 1%、10YR6/6を不整形に30%含む	
									10YR4/2を不整形に30%含む	
	3	10YR	6/6	si	csa	-				
	4	10YR	3/3	fsa	csa	-	2	10%		
	5	10YR	4/3	si	fsa	csa	2	1%	1mm 焼土 3%	
	6	10YR	6/6	si	csa	-	2	1%		
	7	10YR	3/1	fsa	csa	-	2	3%	1mm 炭化物 1%	
37	1	/	/							
	2	/	/							
	3	10YR	4/2	si	csa	-	2	5%		
							30	5%		
	4	10YR	4/3	fsa	csa	si	2~5	5%	1mm 炭化物 2%	
	5	10YR	6/6	si	csa	-	2~5	5%		
38	1	7.5YR	3/1	si	csa	-	2	15%	1mm 焼土 1%、2mm 炭化物 2%	
							5~10	10%		
	2	10YR	3/4	fsa	csa	-	2	3%		
							5~10	5%		
	3	10YR	4/4				2~5	2%		

第3図 遺構分布及び須恵器分布図

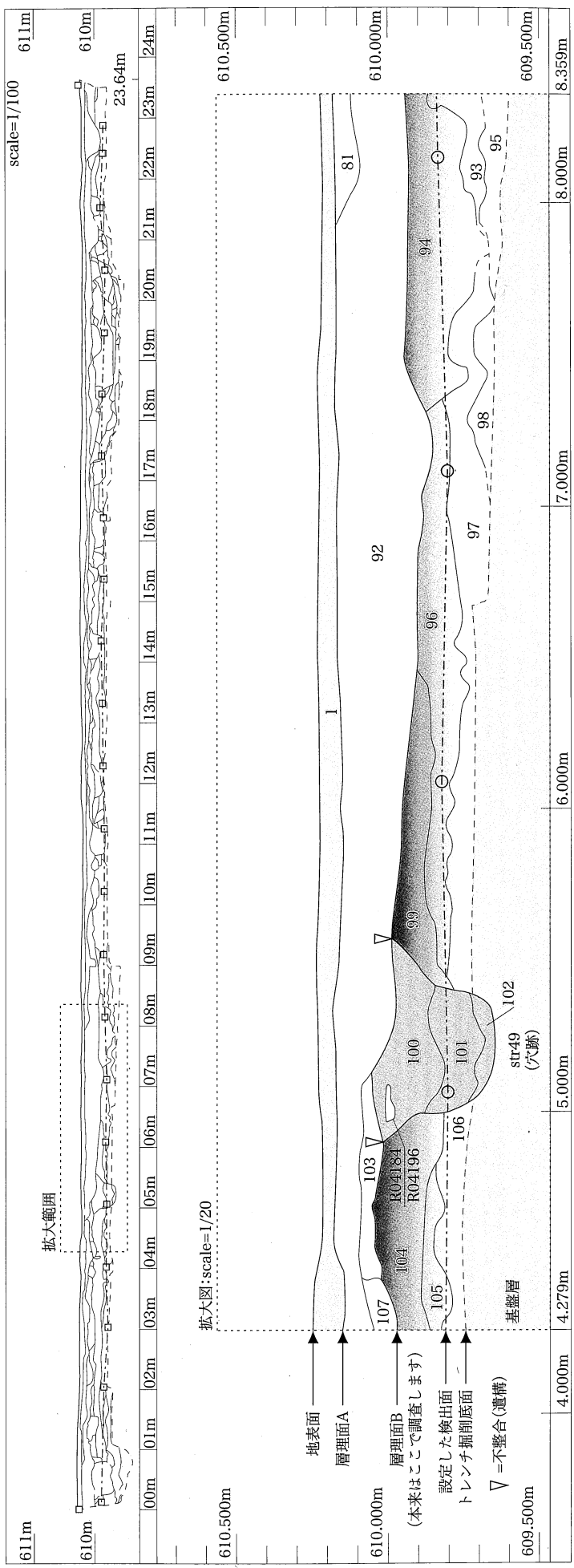




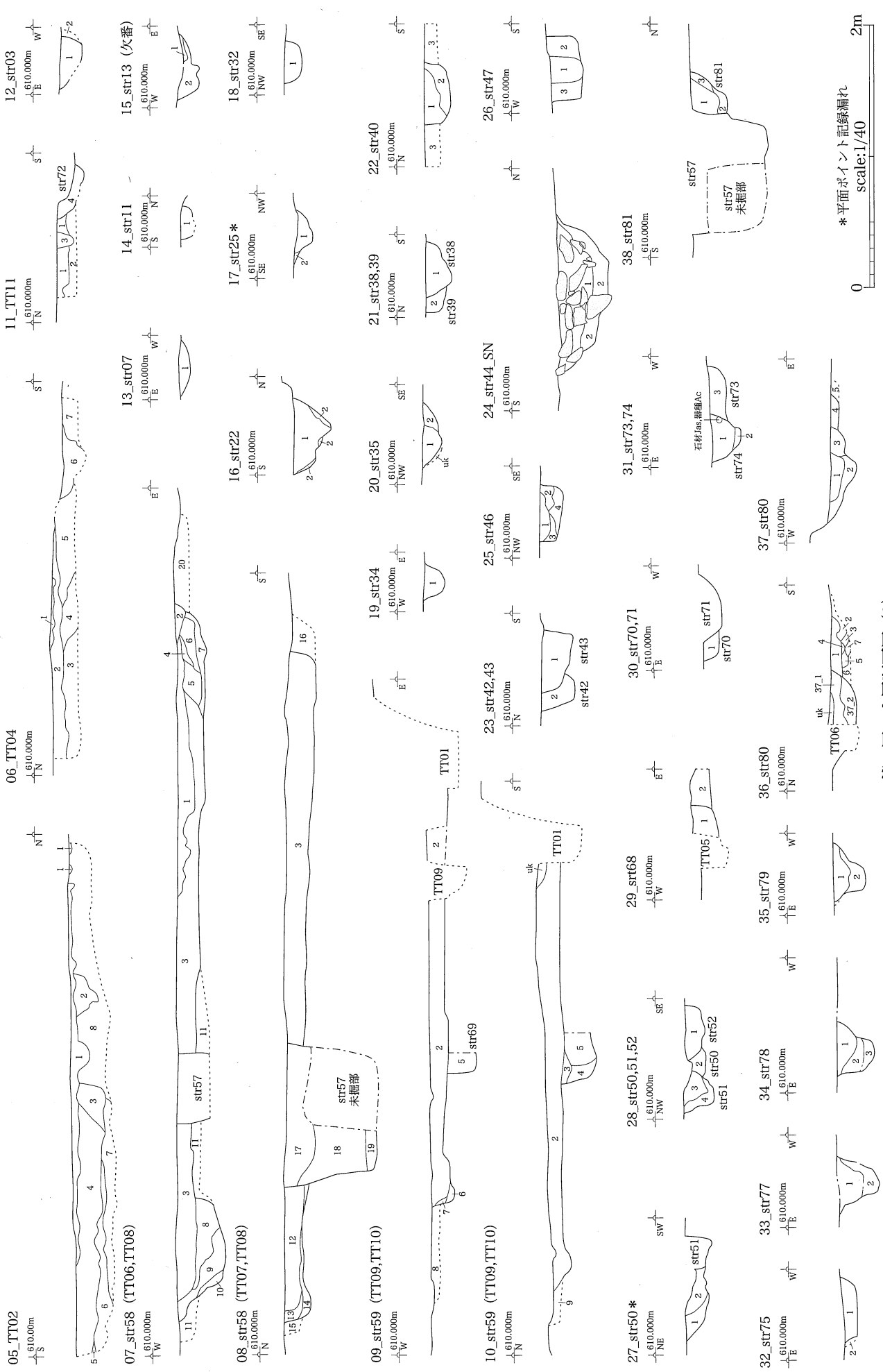
第4図 土層断面図 (1)



第5図 土層断面図 (2)



第6図 仮設検出面エレベーション断面投影図



第7図 土層断面図 (3)

第4表 遺構一覧

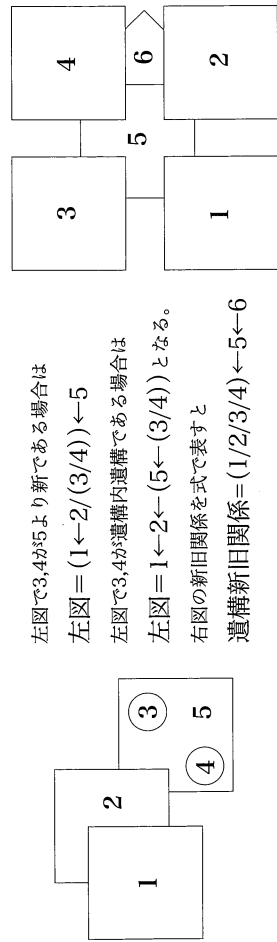
遺構ID	検出層	推定機能名称	欠番	備考および振替情報と欠番事由(認定日-日付00は現場登録台帳記入漏れ)	断面函数	断面ID	断面写真	切合遺構数	本跡より新しい遺構	本跡より古い遺構	現存最大長(m)
str01	仮設面	住居跡	0		2	02,03	1	1	08		2.466
str02	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050509)	0	-	0	0			-
str03	仮設面		-	0	1	12	1	0			0.425
str04	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	0	-			-
str05	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	0	-			-
str06	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050509)	0	-	0	-			-
str07	仮設面	穴跡	0		1	13	1	0			0.453
str08	仮設面	畝跡	0		0	-	1	1	01		0.990
str09	仮設面	住居跡	0		1	02	1	1	29		2.709
str10	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	0	-			-
str11	仮設面	穴跡	0		1	14	1	0			0.286
str12	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050504)	0	-	0	-			-
str13	仮設面		-	1 基盤礫層の礫間土層を遺構と誤認した為(20050510)	0	-	0	-			-
str14	仮設面	畝跡	0		0	-	0	0			0.960
str15	仮設面	畝跡	0		0	-	0	1	66		0.242
str16	仮設面	畝跡	0		0	-	0	0			1.097
str17	仮設面		-	1 礫周りの上層取り残しを誤認した為(20050500)	0	-	0	-			-
str18	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	0	-			-
str19	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	0	-			-
str20	仮設面	住居跡	0		1	03,04	1	1	21		2.317
str21	仮設面	畝跡	0		0	-	0	1	20		0.980
str22	仮設面	穴跡	0		1	16	1	0			0.645
str23	仮設面		-	1 掘削の結果、同一遺構と確認し遺構16に統合した為(20050503)	0	-	0	-			-
str24	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050509)	0	-	1	-			-
str25	仮設面	穴跡	0		1	17	1	0			0.399
str26	仮設面		-	1 断面で取り残し土層と確認しstr55に統合した為(20050503)	0	-	0	0			-
str27	仮設面		-	1 基盤礫層の礫間土層を遺構と誤認した為(20050509)	0	-	0	0			-
str28	仮設面		-	1 基盤礫層の礫間土層を遺構と誤認した為(20050509)	0	-	1	0			-
str29	仮設面	畝跡	0		0	-	0	1	09		1.218
str30	仮設面	畝跡	0		0	-	0	0			0.545
str31	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	0	-			-
str32	仮設面	穴跡	0		1	18	1	0			0.326
str33	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	0	-			-
str34	仮設面	穴跡	0		1	19	0	0			0.336
str35	仮設面	穴跡	0		1	20	1	0			0.512
str36	仮設面	穴跡	0	礫多量を含む	0	-	0	0			1.785
str37	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	0	-			-
str38	仮設面	穴跡	0		1	21	1	1	39		0.424
str39	仮設面	穴跡	0		1	21	1	1	38		0.272
str40	仮設面	穴跡	0		1	22	1	0			0.597
str41	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	1	-			-
str42	仮設面	穴跡	0		1	23	1	1	43		0.307
str43	仮設面	穴跡	0		1	23	1	1	42		0.489
str44	仮設面	穴跡	0	CrAs PT2が集中分布する	1	24	0	0			0.730
str45	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	0	-			-
str46	仮設面	穴跡	0		1	25	1	0			0.639
str47	仮設面	穴跡	0		1	26	1	0			0.654
str48	仮設面		-	1 上層の取り残し、または染みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	0	-			-
str49	仮設面	穴跡	0		1	02	1	0			0.302
str50	仮設面	穴跡	0		1	27,28	1	2	51/52		0.338
str51	仮設面	穴跡	0		1	27,28	1	1	50		0.579
str52	仮設面	穴跡	0		1	28	1	1	50		0.545

遺構ID	検出層	推定機能名称	欠番	備考	および	振替情報	欠番事由(認定日・日付00は現場登録台帳記入漏れ)	断面図数	断面写真	切合遺構数	本跡より新しい遺構	本跡より古い遺構	現存最大長(m)
str53	仮設面	-	1	上層の取り残し、または築みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	-	1	-	-	-	-	-
str54	仮設面	-	1	上層の取り残し、または築みを遺構と誤認した為(20050500)	0	-	-	0	-	-	-	-	-
str55	仮設面	-	1	上層の取り残し、または築みを遺構と誤認した為(20050503)	1	05	-	0	-	-	-	-	-
str56	仮設面	-	1	断面で取り残し土層と確認しstr55に統合した為(20050503)	0	-	-	0	-	-	-	-	-
str57	仮設面	穴跡	0	-	2	07,08,38ELV	1	1	58	-	-	-	0.963
str58	仮設面	住居跡	0	-	2	07,08	1	9	57(64/72)	76(77/78/79/80/81)	-	-	6.618
str59	仮設面	住居跡	0	-	4	04,05,09,10	1	8	60/68	69/(70←71)/(73←74)/75	-	-	6.612
str60	仮設面	散跡	0	-	0	04	0	7	59←((69/(70←71))/(73←74)/75))	-	-	2.029	
str61	仮設面	-	1	遺物を包含した層を遺構と誤認した為(20050500)	0	-	-	0	-	-	-	-	-
str62	仮設面	散跡	0	-	0	-	0	0	-	-	-	-	0.724
str63	仮設面	散跡	0	-	0	-	0	0	-	-	-	-	1.926
str64	仮設面	穴跡	0	-	0	-	0	7	58←(76/77/78/79/80/81)	-	-	0.868	
str65	仮設面	穴跡	0	-	0	-	1	0	-	-	-	-	0.418
str66	仮設面	穴跡	0	-	0	-	0	1	15	-	-	-	1.208
str67	仮設面	溝跡	0	-	1	02	1	0	-	-	-	-	10.367
str68	仮設面	穴跡	0	-	1	29	0	7	59←((69/(70←71))/(73←74)/75))	-	-	0.625	
str69	str59底面	住居-柱穴跡	0	-	2	09,10	0	3	(60/68)←59	-	-	-	0.458
str70	str59底面	住居-穴跡	0	-	1	30	1	4	(60/68←59)←71	-	-	-	0.357
str71	str59底面	住居-穴跡	0	-	1	30ELV	0	4	(60/68)←59	70	-	-	0.521
str72	仮設面	穴跡	0	-	1	11	0	1	58	-	-	-	0.741
str73	str59底面	住居-穴跡	0	-	1	31	1	4	(60/68←59)←74	-	-	-	0.485
str74	str59底面	住居-穴跡	0	-	1	31	1	4	(60/68)←59	73	-	-	0.421
str75	str59底面	住居-穴跡	0	-	1	32	1	3	(60/68)←59	-	-	-	0.534
str76	str58底面	住居-周溝跡	0	-	1	08	1	4	(57/64/72)←58	-	-	-	6.056
str77	str58底面	住居-柱穴跡	0	-	1	33	1	4	(57/64/72)←58	-	-	-	0.552
str78	str58底面	住居-柱穴跡	0	-	1	34	1	4	(57/64/72)←58	-	-	-	0.635
str79	str58底面	住居-柱穴跡	0	-	1	35	1	4	(57/64/72)←58	-	-	-	0.444
str80	str58底面	住居-内穴跡	0	-	2	36,37	1	4	(57/64/72)←58	-	-	-	1.402
str81	str58底面	住居-柱穴跡	0	-	1	38	1	4	(57/64/72)←58	-	-	-	0.445

注：遺構一覧項目「本跡より新しい遺構」と「本跡より古い遺構」の表記について

遺構新旧関係式

遺構新旧関係式とは、ある遺構に対して別の遺構が接した場合に発生する時間差を記号化したものである。一覧において、ある遺構に対して直接および間接での遺構切り合い関係を問わず、関係する遺構のすべてを表記している。矢印記号「←」は、常に右方向で用い「より新しい遺構である」という新旧関係を表記している。スラッシュ記号「/」は、前後にある遺構番号同士の新旧関係は不明という意味を持たせている。括弧記号「()」は、矢印記号またはスラッシュ記号が隣り合う場合、原則として括弧全体に掛かることで遺構の新旧関係を表記している。



左図で3,4が5より新である場合は

左図=(1←2/(3/4))←5

左図で3,4が遺構内遺構である場合は

左図=1←2←(5←(3/4))となる。

右図の新旧関係を式で表すと

遺構新旧関係=(1/2/3/4)←5←6

第5表 石製遺物石材単位器種組成

(略号凡例:石材は第6表、器種は第8表を参照)

石材	MS	Co	F	BC	BF	Ch	FP	Dr	RF	MF	FA	P	PT	PT1	PT2	Ac	総計	総重量(g)	石材
Ob	6	22	134	6	4	3	7	1	12	6							201	252.4	Ob
An													186	48	1	235	83119.1	An	
CrAs												2046	125	71	2243	168568	CrAs		
GrDi												3	2	5	987.3	GrDi			
Di												4	4	4	1584	Di			
GrAp												4	1	5	201.3	GrAp			
GrPo												13	8	21	6251.5	GrPo			
QuPo												5	5	259.2	QuPo				
Po												2	2	3	164.1	Po			
Co												6	3	9	940.5	Co			
HsSa												5	4	12	4857.2	HsSa			
Sa												241	131	5	377	22199.6	Sa		
SiMu																1	0.9	SiMu	
Sh												12	5	20	345.8	Sh			
Sc												1	1	3	408.5	Sc			
Tu												47	7	1	57	1017.6	Tu		
Ch												2	2	2	115.3	Ch			
Qu												1	1	1	5.6	Qu			
Jas												1	1	1.5	Jas				
対象外												921				921	91294.2	対象外	
総計	6	23	152	6	4	3	8	1	13	6	1	921	2577	326	78	1	4126	382574	総計

第6表 石材略号 第7表 石製遺物遺構単位石材組成

石材略号	石材名	Ob	An	CrAs	GrDi	Di	GrAp	GrPo	QuPo	Po	Co	Hsa	Sa	SiMu	Sh	Sc	Tu	Ch	Qu	Jas	対象外	総計	遺構底線出面	出土遺構	
str01	黒曜石																							str01	
str03	安山岩			7									1									1	8	str03	
str08	溶質凝灰岩			3																			3	str08	
str09	花崗閃緑岩			5									1										7	str09	
str11	閃緑岩			1																			1	str11	
str14	半花崗岩			9									2										11	str14	
str20	花崗斑岩			1																			1	str20	
str22	石英斑岩			1																			1	str22	
str34	ヒン岩			1																			1	str34	
str38	礫岩			1									1										2	str38	
str39	硬砂岩			1									1										2	str39	
str40	砂岩			2																			2	str40	
str43	珪質泥岩			1																			1	str43	
str44	頁岩			2									6										11	str44	
str47	輝緑凝灰岩			4																			5	str47	
str50,51,52	凝灰岩			1																			1	str50,51,52	
str51	チャート												1										1	str51	
str51,52	石英												1										1	str51,52	
str52	碧玉												1										1	str52	
str57				9									4										2	str57	
str58				135									4										608	str58	
str58底面				3																			1	str58底面	
str59				2																			4	str59	
str59底面				2																			2	str59底面	
str61				3																			1	str61	
str62				8									6										1	str62	
str65				2																			2	str65	
str66				5																			2	str66	
str67				9									1										1	str67	
str72				1																			3	str72	
TG				7																			10	TG	
TK				6									1										3	TK	
TT01				4																			17	TT01	
TT02				1									1										2	TT02	
TT05				1									2										4	TT05	
TT06				3																			1	TT06	
TY				10																			1	TY	
対象外				63									121										278	対象外	
総計				201									377										921	総計	
出土遺構				235									12										4126	出土遺構	
遺構底線出面				Ob	An	CrAs	GrDi	Di	GrAp	GrPo	QuPo	Po	Co	Hsa	Sa	SiMu	Sh	Sc	Tu	Ch	Qu	Jas	対象外	遺構底線出面	出土遺構
総計				201	235	2243	5	4	5	21	5	3	9	12	377	1	20	3	57	2	1	1	921	4126	総計
対象外の石材はすべて器種Pとしたもので、鑑定も対象外とした。																									

第8表 石製遺物器種略号

器種略号	器種名
MS	原石
仮設定義	人為的加工痕が全く認められな いが石器の素材として考えられる 個体
Co	石核
仮設定義	通常剥離の痕跡としての剥離痕が 認められる個体
F	剥片
仮設定義	通常剥離の痕跡としての剥離面が 認められる個体
BC	楔状石核
仮設定義	両極剥離の痕跡としての剥離痕が 認められる個体
BF	楔状剥片
仮設定義	両極剥離の痕跡としての剥離面が 認められる個体
Ch	砕片
仮設定義	最大長5mm以下の個体
FP	鏃形石器
仮設定義	主として押圧剥離により両面を 整形された個体
Dr	錐形石器
仮設定義	機能部と考えられる尖頭部の形成 された個体
RF	二次加工ある剥片
仮設定義	通常剥離、両極剥離、押圧剥離 のいずれかにより形成された、 主要剥離面を切る剥離痕の認め られる剥片
MF	微細剥離痕ある剥片
仮設定義	肉眼観察において連続する微細 な剥離痕の認められる剥片
FA	打製斧形石器
仮設定義	通常剥離、両極剥離等により両側 縁が湾曲されたか、もしくは刃部 の形成された斧形を呈する個体
P	礫
仮設定義	剥離、剥落、研磨、敲打、折れの いずれの痕跡も認められない個体
PT	礫片
仮設定義	自然為による剥落の痕跡が認めら れる個体
PT1	礫片1類
仮設定義	剥落及び折り取りもしくは折れの 痕跡が認められる個体
PT2	礫片2類
仮設定義	被熱による剥落の痕跡が認められ る個体
Ac	管状石器
仮設定義	刃磨技術により円柱状に形成さ れ、穿孔のなされた個体

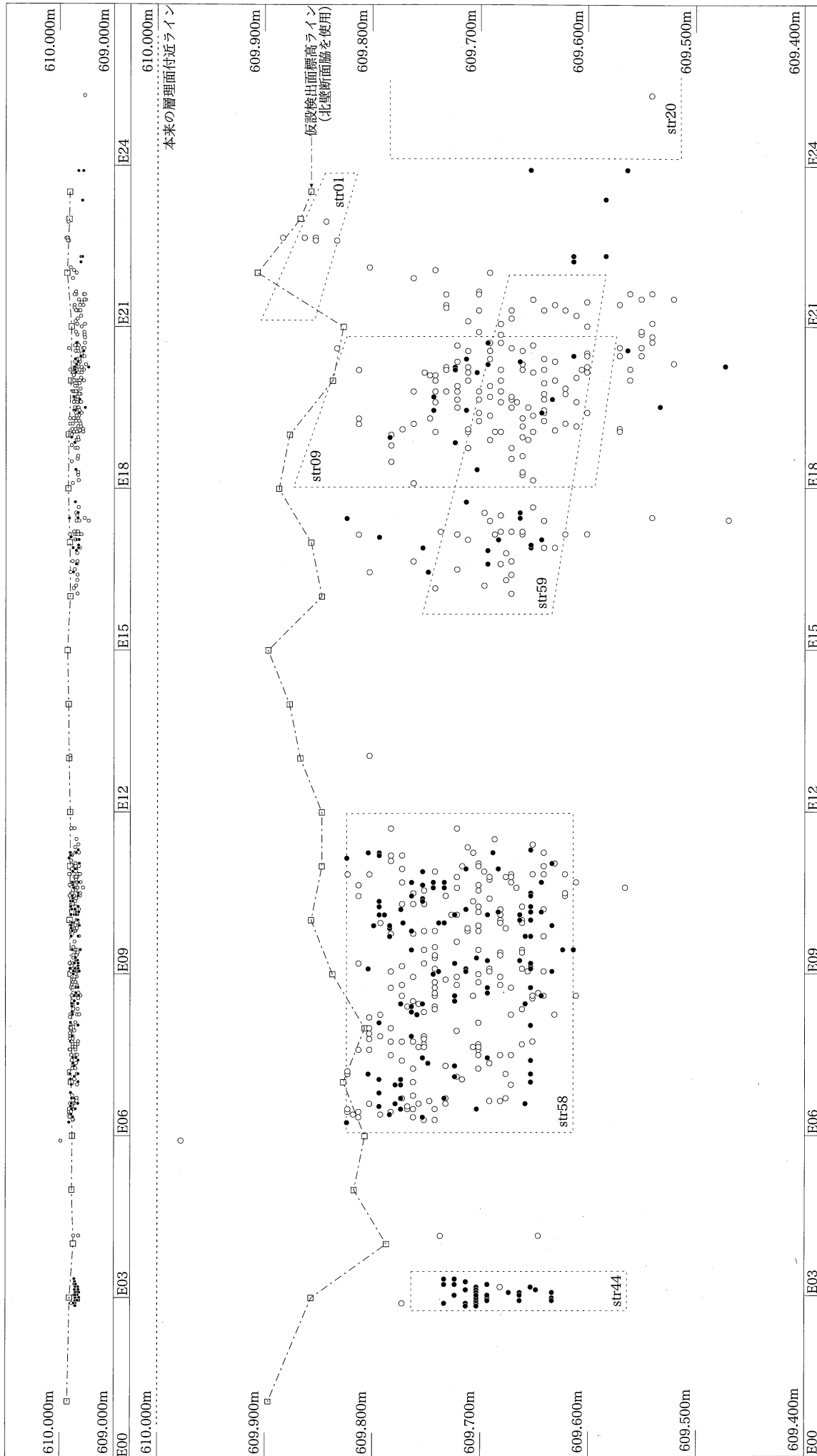
*石器器種の認定基準は大田圭都(1998,2000)に準拠し、表は字句を一部変更し使用した。1998「石器・石製品」、『平瀬遺跡I・II』、『松本市教育委員会 pp75~pp105 2000「石器」、『平瀬遺跡I』、『松本市教育委員会 pp93~pp122

第9表 石製遺物遺構単位器種組成

出土遺構	遺構底検出面	MS	Co	F	BC	BF	Ch	FP	Dr	RF	MF	FA	P	PT	PT1	PT2	Ac	総計	遺構底検出面	出土遺構
str01													1					1		str01
str03														8				8		str03
str08														3				3		str08
str09				1										5		1		7		str09
str11														1				1		str11
str14														1				1		str14
str20														11				11		str20
str22														1				1		str22
str34														1				1		str34
str38														1	1			2		str38
str39														2				2		str39
str40														2				2		str40
str43														1				1		str43
str44													11	60	8	49		128		str44
str47													1	4				5		str47
str50,51,52														1				1		str50,51,52
str51														1				1		str51
str51,52														1				1		str51,52
str52														74	11			92		str52
str57				5									2	1537	159	19		2466		str57
str58				2	11	106	2	2	2	2	5	1	608	1537	159	19		2466		str58
str58底面				1	2								1					4	str76	str58底面
														2	4			6	str77	
														3	5			9	str78	
														2				3	str79	
														2				3	str80	
														1				3	str81	
														4				1	str81	
str59													3	9	9			26	str57底面 計	str59
str59底面										4			3	37	9	1		77		str59底面
														1				1	str69	
														1				1	str73	
														1	2	1		4	str74	
														1				1	str75	
														4	2	1		7	str58底面 計	
str61													1	1				2		str61
str62													1	14	7			26		str62
str65													2	2				2		str65
str66													2	6	2			14		str66
str67													1	24	7			32		str67
str72													3	3				3		str72
TG													3	3				10		TG
TK													3	6	1			16		TK
TT01													3	6	1	5		17		TT01
TT02													4	26	3			33		TT02
TT05													4	26	3			33		TT05
TT06													1					4		TT06
TT10													1					1		TT10
TY													5	1	1			17		TY
対象外													278	718	105			1101		対象外
総計													921	2577	326	78	1	4126		総計
出土遺構																				遺構底検出面
出土遺構																				遺構底検出面
出土遺構																				遺構底検出面
出土遺構																				遺構底検出面

第8図 石製遺物分布図





第9図 遺物垂直分布図

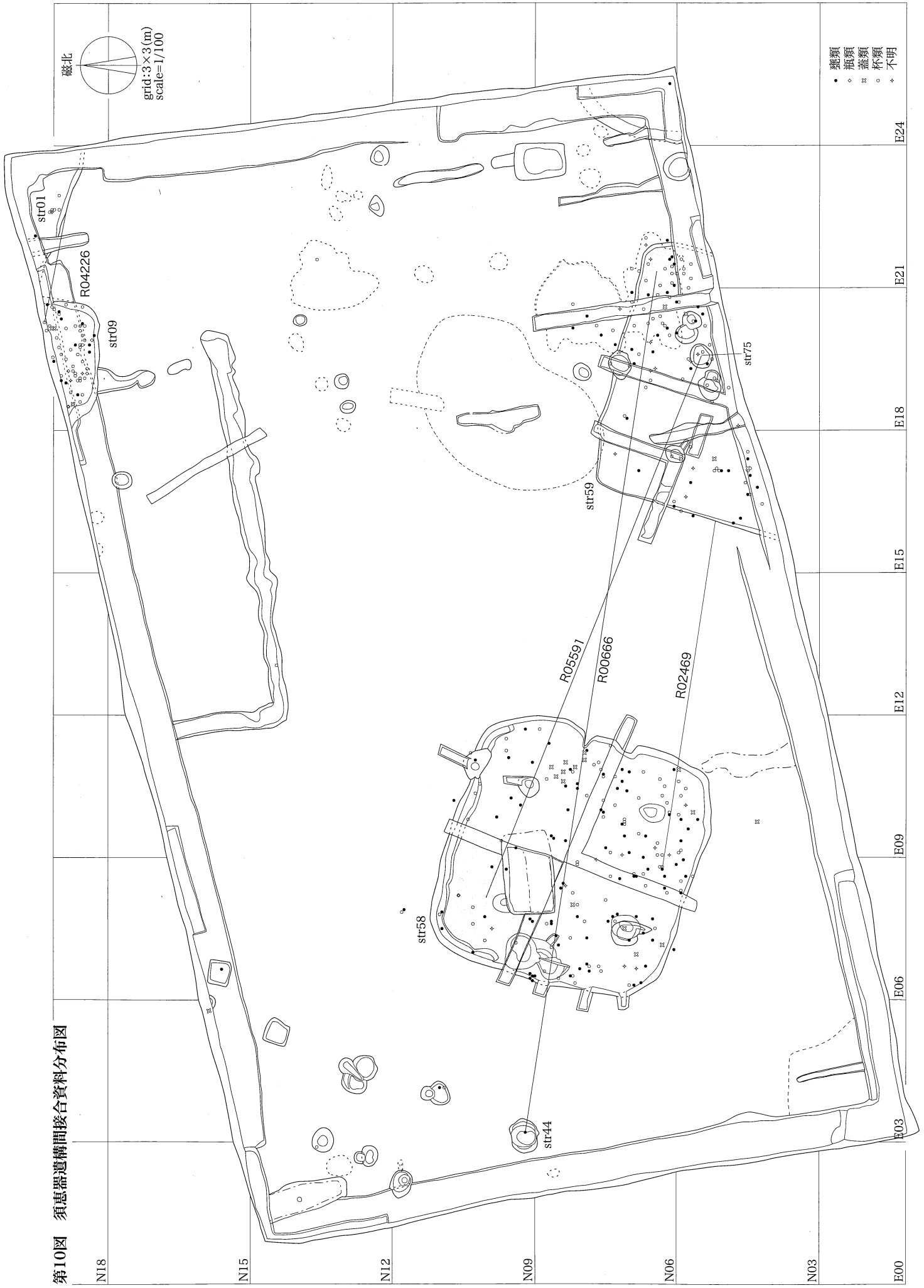
上図: scale=1/100
 下図: 横軸 grid scale=1/100
 縦軸 level scale=1/5

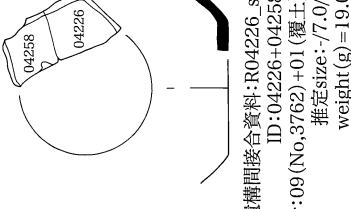
●: 石器
 ○: 須恵器

註: 石製遺物は器種P・PT・PTIを除く各器種の計203点、土製遺物は須恵器・土製品等の計499点、金属製遺物1点をプロットした。すべての遺物種とも帰属層準は不明のままである。各遺構内において平面・垂直分布はランダムに分布する。重量別の検討でも同様である。なお、石製遺物個体別重量は最軽量0.1g以下から最重量7,800gまで、須恵器は最軽量0.1g以下から最重量356.7gまでである。

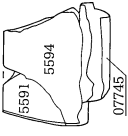
石製遺物を石材器種別平面・垂直分布でみた場合、石材CrA器種PT2がstr44に、石材Obがstr58・59に偏在する。土製遺物のうち須恵器器種別で平面分布をみた場合、偏在する。このあり方は器種組成上の多少が主原因と推定される。しかし、この器種組成上の問題は、遺構の使用されたであろう時期の問題ではなく、あくまで遺構の埋没過程においての問題である。

第10図 須惠器遺構間接合資料分布図





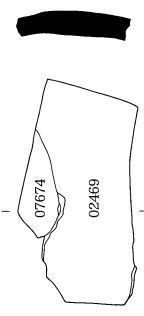
遺構間接合資料:R04226_st
ID:04226+04258
str:09 (No.3762)+01(覆土)
推定size:-/7.0/-
weight(g)=19.0



遺構間接合資料:R05591_st
ID:05591+05594+07745
str:58(1区覆土)+58(1区覆土)+75(覆土)
推定size:17.8/13.4/5.9
weight(g)=39.1



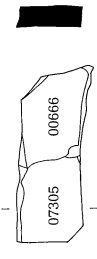
遺構間接合資料:R02469_skt
ID:02469+07674
str:58 (No2240) +59(覆土)
weight(g)=116.0



遺構内接合資料:R04184_sf_str:49
推定size:17.8/-/



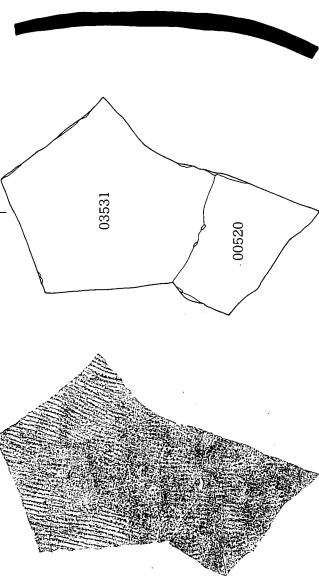
遺構内接合資料
R00093_sb_str:09
R04844_skt_str:57+58



遺構間接合資料:R00666_skt
ID:00666+07305
str:44 (No.0580) +59(6区覆土)
weight(g)=67.0



遺構内接合資料:R00046_st
str:09+TG (N12E09)
推定size:13.6/-/



遺構内接合資料:R00201_st_str:58
推定size:17.2/15.4/3.3



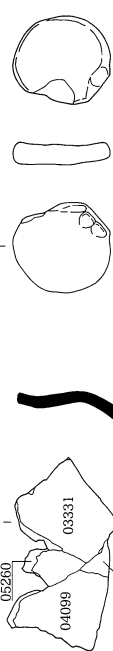
遺構内接合資料:R01275_st_str:58
推定size:17.4/10.3/4.2



遺構内接合資料
R01032_st_str:58
推定size:12.8/-/

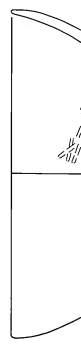


遺構内接合資料:R03025_sf_str:58
推定size:16.0/-/3.3

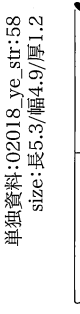


遺構内接合資料:R04904_htr_str:58
推定size:18.4/14.4/5.9

遺構内接合資料
R03331_sk_str:58+TT05



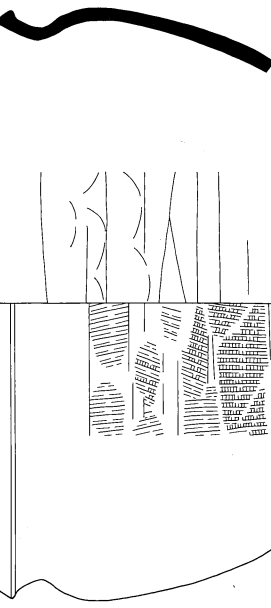
遺構内接合資料:R04159_st_str:58
推定size:16.0/12.9/4.0



遺構内接合資料:R01614_sk_str:58
推定size:-/12.4/-



遺構内接合資料:R03326_skt_str:58
推定size:-/14.2/-



遺構内接合資料:R04151_skt_str:58+TK
推定size:30.4/-/



遺構内接合資料:R00480_st_str:59
推定size:19.2/14.1/3.6



遺構内接合資料:R04151_skt_str:58+TK
推定size:30.4/-/

scale=1/4 [推定size:口徑/底盤器高(cm)] 20cm
ID03691のみscale=1/2

第11図 遺物実測図

5. 総括

調査成果で触れられなかったこと、記録保存されなかった調査記憶を補足するとともに成果と問題点について再確認することで総括とする。

5.1. 遺構について

- * 遺構埋没時期は、上層部分を失うため埋没過程の初期段階を捉えていると考えられる。
- * 遺構の埋没は、層理面より上層に自然為の堆積がみられないこと、覆土に自然為と考えられるふり分け等がみられないことから、人為的な埋没と考えられる。
- * 竪穴住居跡と推定される遺構は遺構番号で、str01・09・20・58・59の5箇所である。
- * 仮設面で検出された穴跡は遺構番号でstr07・11・22・25・32・34・35・36・38・39・40・42・43・44・46・47・49・50・51・52・57・64・65・66・72の25箇所である。うちstr36・57は一部未掘である。
- * 穴跡で調査区北西部に位置する単独遺構のstr35・40と遺構切り合い関係のあるstr42・43及びstr51・52・53の一群は、平面位置関係から掘立柱建物跡の可能性もあるが、むしろ竪穴住居跡を壊して仮設面を設定してしまったことによる遺構内遺構としての柱穴跡である可能性が高い。
- * 穴跡47は平面形が方形である。str47では柱痕跡と推定される土層を確認した。近接した位置にあるstr46も平面形が同様に方形であることから、これらの穴跡は掘立柱建物跡の一部と推定される。規模等は不明だが、本遺跡では初見となる。
- * 畝跡は、不整合を形成する攪拌された堆積物が断面ID02・04で間隔を空けて同様な堆積物を確認したこと、一部が平面で溝状に検出されたことから推定した。深く攪拌された箇所は平面で検出できたが、仮設した検出面のため本来あったすべてを平面で検出できていない。遺構番号でstr08・14・15・16・21・29・30・62・63の9箇所である。
- * 溝跡はstr67が相当する。仮設面で残された平面図ではL字形をするが、上層土の除去作業過程では、調査区内で収束しないコの字状をした平面形であった。

5.2. 遺物について

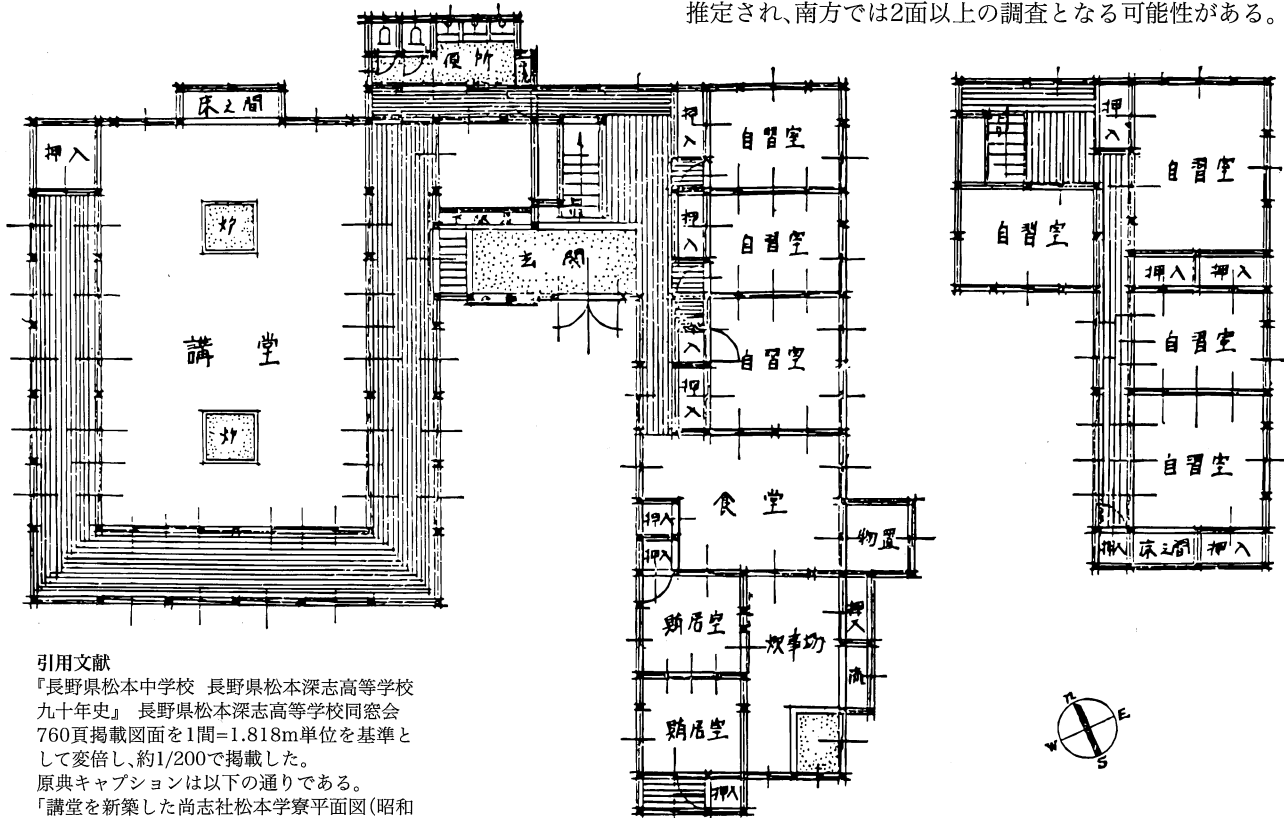
- * str09竪穴住居跡出土の土師器甕には、製作段階で叩き技法を用いた痕跡をもつものが11点ある。
- * str49穴跡は、上層に須恵器甕片1点と杯蓋Bが2個体ある。杯蓋Bは形態から3期から4期と推定され、奈良時代の8世紀中頃から後半には埋没を完了したと推定される。
- * str58竪穴住居跡出土の土製遺物中に、銅椀を模倣したとみられるロクロ成形の土師器椀がある。底部には回転利用の篋削り痕跡、内面には磨きとみられる痕跡がある。
- * 遺物平面分布で、仮設検出面上に位置する遺物が少量あり、遺構の見落としまたは壊した可能性がある。
- * 黒曜石製石器群の平面分布は、str58・59竪穴住居跡に偏在する。石器群は縄文時代と推定される。str61包含層が平面分布でこの周辺まで広がっていた可能性がある。
- * 整理作業過程において紛失した遺物が8点ある。

5.3. 尚志社松本学寮とみられる痕跡について

- * 遺構として認識されたうち、覆土から近現代遺構として捉えたものは、畝跡以外には溝跡のstr67、穴跡ではstr36・57・65・66である。ただしstr65は第4表で記した事由により松本学寮の痕跡からは除外される。
- * 穴跡str36は下部に直径約10cmの穴がある。穴は検出した段階で空洞であった。
- * 建物平面図を調査区磁北に合わせると溝跡str67はおおむね長辺方向が一致し、敷地位置関係と平面規模から玄関基礎部分と推定される。多くの溝跡は、具体的機能が不明な平面形状認識名称「溝跡」であり、実際の機能推定はされないものである。
- * 松本学寮焼失後の土地利用については、現場作業によって得られた土層記録と文献記載内容と一致する。

5.4. 遺跡構造

集落跡とされる遺跡範囲の縁辺部調査であったが、更に広がる様相を示す。主な遺構の埋没時期は奈良・平安時代でも8世紀中頃から9世紀前半と推定されるが、str20は10世紀後半から11世紀前半とみられ本遺跡では初見となる。また、縄文時代とみられる包含層は南方へ広がると推定され、南方では2面以上の調査となる可能性がある。



引用文献

『長野県松本中学校 長野県松本深志高等学校九十年史』 長野県松本深志高等学校同窓会760頁掲載図面を1間=1.818m単位を基準として変倍し、約1/200で掲載した。原典キャプションは以下の通りである。「講堂を新築した尚志社松本学寮平面図(昭和11,11.03)右図は階上一村山圭蔵」

第12図 尚志社松本学寮平面図



1_bw495_断面02(西から6m付近,断面図02拡大範囲) 撮影:南から



2_bw296_遺物回収作業状況(str58竪穴住居跡) 撮影:南西から



3_bw581_調査区遺構完掘状況全景 撮影:西から



4_bw591_調査区西側遺構完掘状況 撮影:南から



5_bw517_str59(竪穴住居跡)完掘状況 撮影:北東から



6_bw456_str58(竪穴住居跡)ID04159検出状況 撮影:北西から



7_bw624_str58(竪穴住居跡)完掘状況 撮影:南西から



8_bw419_松本深志高等学校生見学風景 撮影:20050523

抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし ありがさきいせき だい3じはっくつちようさほうこくしよ							
書名	長野県松本市 蟻ヶ崎遺跡 第3次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.188							
編著者名	内堀 団							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-0874 長野県松本市大手3-8-13 F5 TEL 0263-34-3000(代表) (記録・資料保管：松本市立考古博物館 〒390-0823 松本市中山3738-1 TEL 0263-86-4710)							
発行年月日	2007(平成19)年3月23日(平成18年度)							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ありがさき 蟻ヶ崎	ながのけんまつもとし 長野県松本市 ありがさき 蟻ヶ崎3丁目424-1	20202	154	38度 15分 51秒	137度 34分 12秒	20050418～ 20050531	332m ²	財団法人深志尚学会による 仮称深志教育会館建設
所収遺跡名	種別	主な時代	遺構	遺物			特記事項	
蟻ヶ崎	集落跡	奈良時代 平安時代 近現代 (推定)	竪穴住居跡 5箇所 遺構内穴跡 12箇所 穴跡 25箇所 溝跡 1箇所 畝跡 9箇所 落ち込み 1箇所	石製遺物(礫片類等) 4,126点 土製遺物(土師器、須恵器等) 4,530点 金属製遺物(刀子) 1点 有機遺物(骨) 1単位	古代の遺構の他、昭和36年に焼失した尚志社松本学寮の基礎と推定される近現代遺構を検出した。			

松本市文化財調査報告No.188

 長野県松本市
 蟻ヶ崎遺跡
 第3次発掘調査報告書

発行日 2007(平成19)年3月23日

 発行 松本市教育委員会
 郵便番号390-8620
 長野県松本市大手3-8-13 F5
 電話番号0263-34-3000(代表)

 印刷 川越印刷株式会社
 郵便番号390-0875
 長野県松本市城西1-5-21
 電話番号0263-32-0131